資料

# 一兵士の日清戦争従軍日誌

井ケ田良治

はじめに
日誌一
日誌二
日誌三

## はじめに

日清戦争については、参謀本部が一九〇七（明治四〇）年に編纂した全七巻におよぶ『明治二十七八年日清戦史』のように浩瀚な戦史をはじめとして、日清戦争を太平洋戦争にいたるアジア侵略史の端初ととらえ鋭くその本質をえぐろうとした中塚明氏の『日清戦争の研究』（一九六八年青木書店刊）などにいたるまで、すでに牛汗の書物がある。

一八五四（安政元）年の開国、一八六八（慶応四）年の明治維新を契機に、わずか二〇年そこそこで、曲りなりにも「近代国家」をつくりあげた日本が、日清戦争の勝利の結果、国内的には、政党の民党的牙を抜き去り、臥薪嘗胆の名のもとに軍備拡張を「国民的」悲願とし、対外的には、領事裁判権の廃止に成功すると同時に、清国に不平等条約を強要し、台湾を植民地とし、朝鮮半島への干渉を強めえたのであるから、この戦争が日本のアジア支配と天皇制軍事大国への出発点であったことは明らかである。それだけに、当時、戦争に対する批判や疑問は起る余地がほとんどなかった。たしかに、北村透谷らの「平和」の思想も誕生してはいたが、それは清冽ではあっても、いまだ大河とはなりえず、内村鑑三が非戦の思想を抱いたのも、彼が戦争の悲惨さを知った以後のことであった。

そのため、非戦論や労働者階級の反戦の行動を抑圧しながら

おこなわれた日露戦争とはちがって、日清戦争は、一見「国民戦争」、国民的合意に支えられたたたかいであるかのような外見を呈している。戦死傷者の少なさもそれを助けたであろう。しかし、日清戦争が、日本の近代史のなかで、アジア侵略の跳躍台となったことはまぎれもない事実である。現在、山辺健太郎氏の仕事をはじめ、多くの日清戦争研究が批判的立場からすすめられ、史料も発掘されつつある。為政者や政治の史料はいまではほとんど発掘されつくしたかの感があるが、いまなお発掘の不十分なのは、多くの無名の民の史料である。彼らは自らの苦悩や悲歎を書きのこすこと少ないままに運命に翻弄されていった。戦争終了後すでに九〇年を経て、聞き書をとることが困難になりつつある現在、当時の人々の実際を伝える民衆の史料を蒐集する努力を強める必要があろう。

ここに紹介する近衛第一聯隊第五中隊第三分隊所属の陸軍歩兵上等兵山田豊次郎の日清戦争従軍日誌は、上述の意味で大変貴重なものといえる。あえて全文の紹介を思い立ったのはその故である。

豆手帖三冊に細かに鉛筆で記されたこの日誌は、日露戦争従軍日誌四冊とともに、京都府長岡京市今里の山田菊枝さんが、夫君先考の遺品として大切に保存なさっていたものである。山田さんが乙訓文化遺産をまもる会の古文書部会に持参されたそ

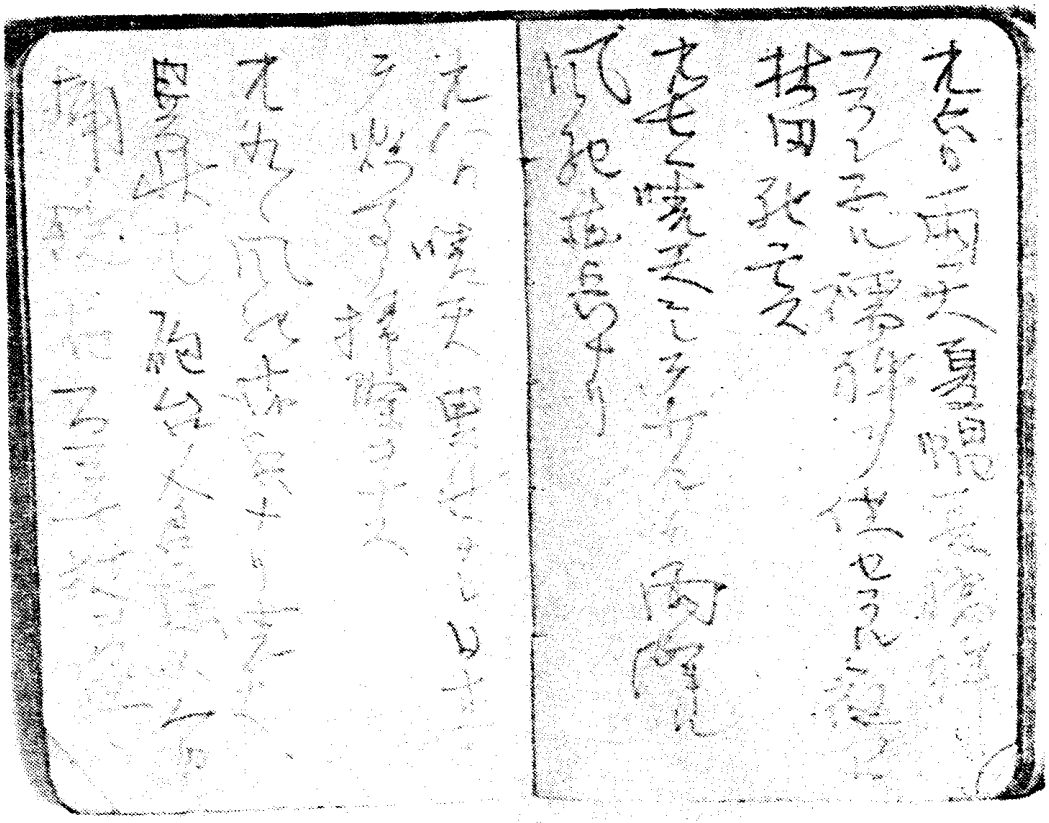


の一部を会員で読み、内容の面白さに驚かされた。

山田豊次郎は、今里の豪農の生れで、多くの小作地を有したという。日誌にみられるように、文学的素養もあり、除隊後は、村役場につとめ、地元の人々が万事相談事をもちこんだインテリであったという。彼の優秀さは近衛兵に抜擢されたことでも、知られる。

日誌は縦七・五センチ、横四・五センチの小さな手帖二冊と、縦八・五センチ、横六センチの手帖一冊とに鉛筆で書かれ、備忘録をもかねていた。第一冊の書出しは、第一分隊の人名簿で、認識番号が記され、末尾に、さまざまな心覚えが記され、最後に東京青山出発後の記録があり、日誌の本文はその間に細かに記されている。第二冊の末尾にも若干の備忘がある。第三冊の最初は宇品出港前日に記されたもので、その行間に台湾で現地人から食糧購入の際の筆談のメモが残っている。第三冊の日誌の前後の備忘記事は、衛兵勤務表や、戦闘の際の残弾調べ、さらに個々人の勲功の記録であり、上等兵の山田豊次郎が、最下級の分隊の責任者としていかに有能・律義で責任感が強かったかをよく示している。このように、日誌本文以外の備忘録も貴重なので、繁をいとわず、可能なかぎり、原型に近い形で採録した。

日誌の部分は、その内容からみて、余暇のある時に数日分ず



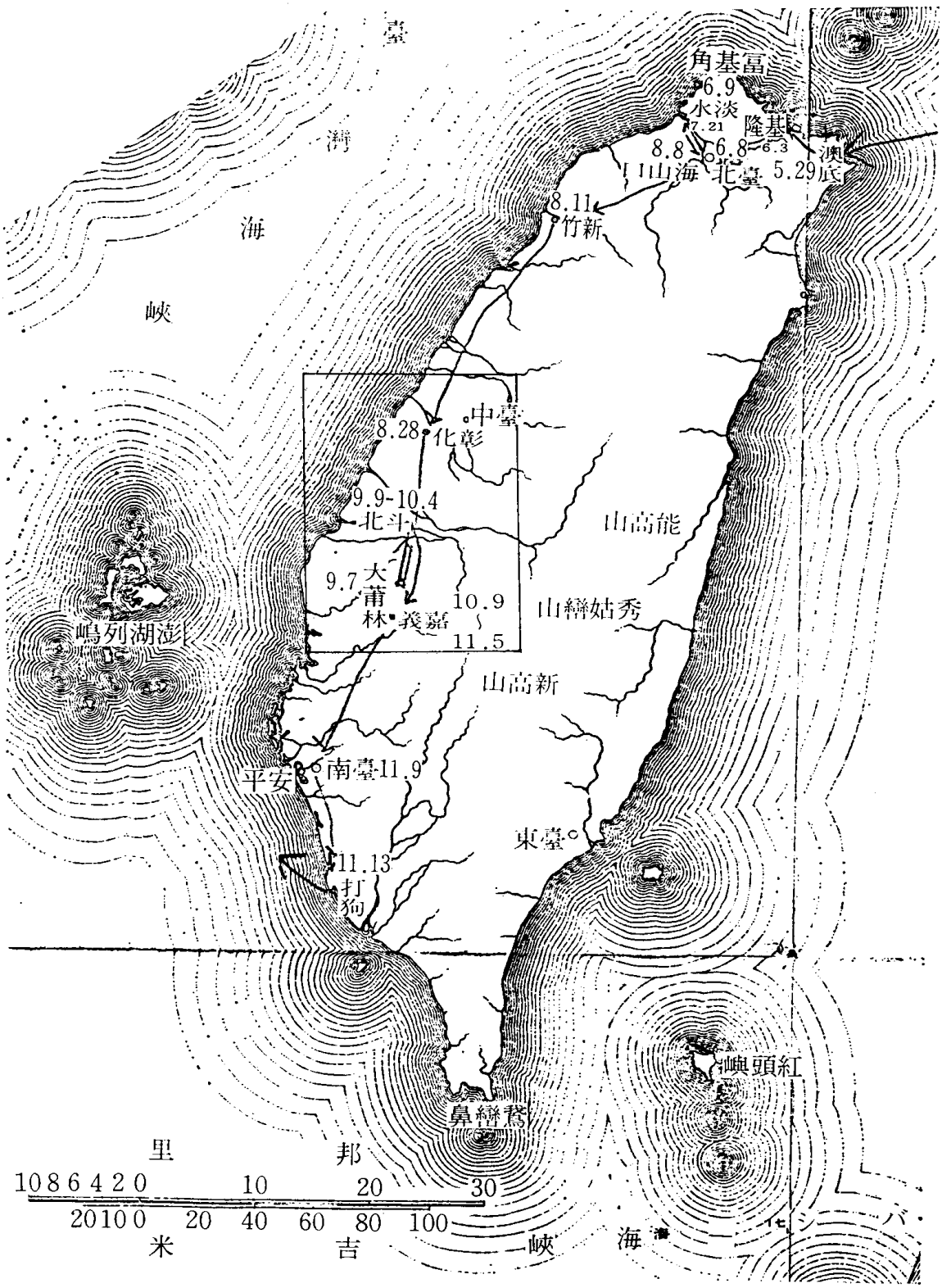
「日誌　二」7月26日～29日条（原寸）

つまとめて記されたものと思われるが、戦争という極限状態の下においてではあれ、はじめて外国の地を踏んだ興奮と好奇心が、彼の文才と相まって、見事な従軍日誌を作らせている。

近衛師団は、明治二八年四月九日宇品を出航したが、四月一二日大連に着き、一五日旅順口に上陸した二日後には、講和条約の調印がおこなわれたので、戦闘を行なわないままに一か月を過している。彼らが本格的に戦闘に参加するのは、五月二九日に台湾三貂湾澳底に着いてからの約五か月にわたる台湾征服においてである。日誌を読む便宜のために、簡単な行路地図を掲げておこう。

上陸後、彼らは台湾北部の平定に出動したが、六月二六日に至るまで、大連以来の冬服のままである。さぞ暑かったと思われるし、これでは病気にならない方が不思議であろう。最初の激戦は六月三日の基留攻撃である。豪雨で清国軍の砲台が威力を発揮しえなかったことも幸いして、基留が陥落すると、五月二五日に独立を宣言していた台湾民主国の総統唐景崧をいただく台湾防衛軍は動揺し、台北は、敗走兵の暴行によって生地獄と化したという（黄昭堂『台湾総督府』一九八一年教育社刊、三六～四〇頁）。六月七日の日誌は、本土から来た清国兵の掠奪の模様や、治安維持のため、背に腹はかえられずに日本軍を歓迎した台湾の人々の姿を記録している。この頃から病死・入院の記録も増加し、山田上等兵自身も高熱に悩まされている。

日清戦争は前述したように、もともと戦闘による死傷者が少


臺
灣
海
峽
角基富
6.9
水淡
7.21
隆基
8.8
6.8
6.3
澳底
5.29
山海
北臺
8.11
竹新
中臺
8.28
化彰
9.9-10.4
北斗
山高能
9.7
大
莆
林
義嘉
10.9
11.5
山繙姑秀
嶋列湖澎
山高新
平安
南臺11.9
東臺
11.13
打狗
嶼頭紅
鼻繙鵞
里
邦
10 8 6 4 2 0
10
20
30
20 10 0
20
40
60
80
100
米
吉
峽
海
シーバ

なかった。死亡その他の犠牲の大半は病気であった。『日清戦史』附録第百二十一によると、死亡者一万三四八七人のうち戦死者は一一三二人、傷死者が二八五人で、一万一八九四人が病死であった。つまり、死亡の八八パーセントが病死だったのである。

北白川宮能久親王を師団長とする近衛師団とのちに南部へ上陸した乃木師団長の下の第二師団を中心とする二個師団半、約五万名の兵、軍夫約二万六千名、馬九千四百余頭からなる台湾征服軍の戦死者は一六四名、負傷者一一五名、病死四六四二名、本国送還病者二万一七四八名、現地入院五二四八名といわれている（喜安幸夫『台湾島抗日秘史』一九七九年原書房刊、八五～八六頁）。『日清戦史』によると、次表のような両師団の減耗数である。病死者は死亡者中で近衛師団八九パーセント、第二師団九四パーセントの高い割合である。ほとんどがマラリアだったというこの高い罹病・死亡の状況は、山田上等兵の日誌の各所にあらわれている。

減耗人員師団別一覧

| | 死亡者 | うち戦死 | うち病死 |
|---|---|---|---|
| 近衛師団 | 2345 | 198 | 2093 |
| 第二師団 | 2823 | 174 | 2670 |
| 計 | 5168 | 372 | 4763 |

もっともひどかったのは、八月二八日彰化占領後、一時足踏していた時期で、「一時惨状ヲ極メ定員二百七十余名ヲ算スヘキ歩兵一中隊ノ健康者多キモ百二十名、少キハ十三名ヲ剰スニ過キサリキ」（『日清戦史』第七巻、二一五頁）という有様であった。

六月九日から淡水に駐留、捕虜輸送などにあったのちしばらく休養した彼らは、七月二三日から台湾北部の戡定作戦に参加した。日誌中の松原少佐は、七月二一日第二大隊長職務取扱として着任した松原晩三郎少佐のことである。

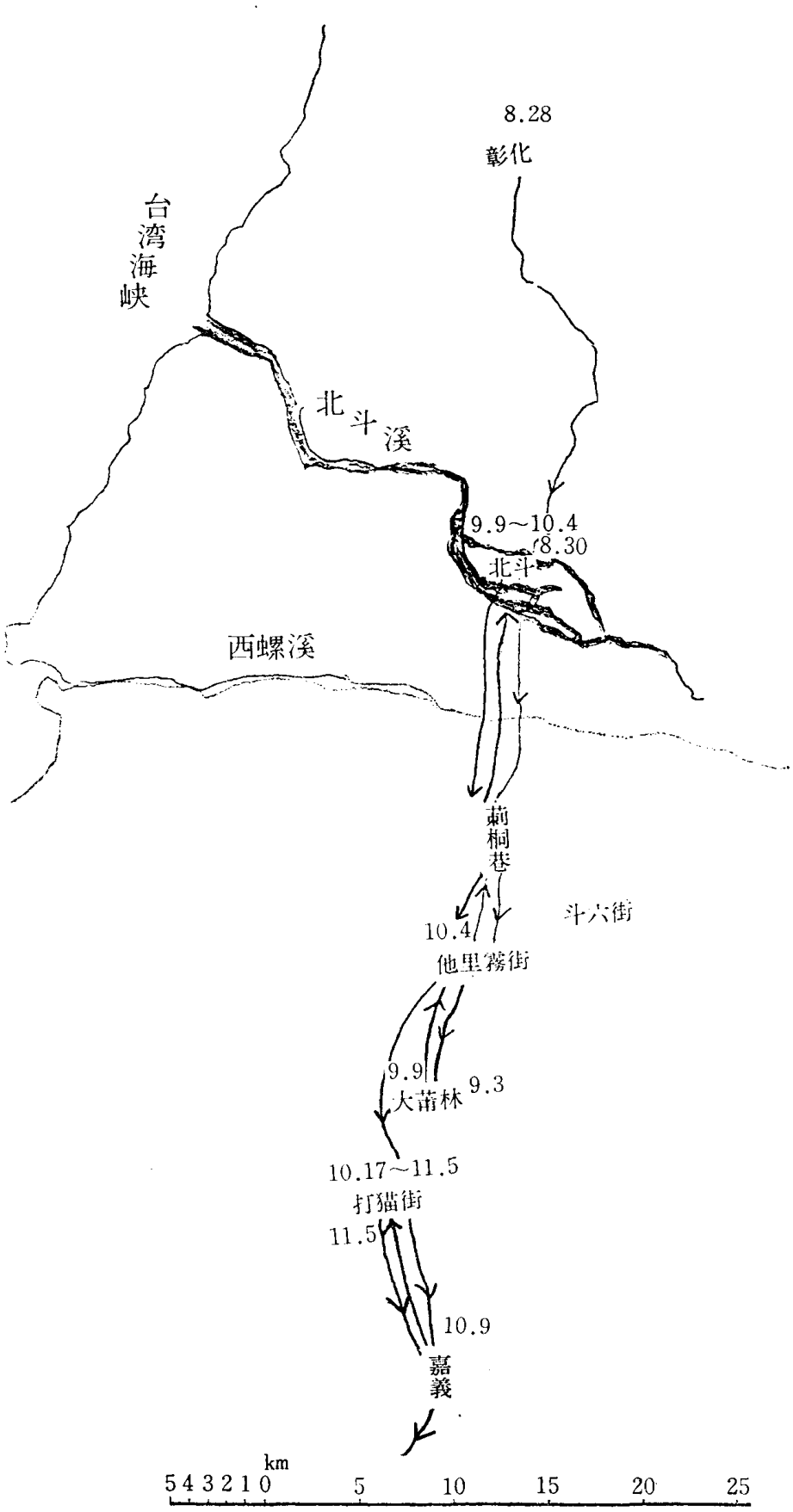
八月に入り、中部平定作戦に入り、八月二八日彰化を占領、さらに南進し、九月二日には大莆林に入った。

台湾北部での清国軍のもろさとはちがって、中部にいたるや、台湾の南部に中心をもつ、台湾民主国の軍民の抵抗は俄然激しさを増した。そのため、慎重な樺山総督は、彰化の線よりの南進を中止し、休養につとめるよう近衛師団に訓令していた。南への探索に派遣された一部隊が敵影をみとめず、疲労のため大莆林にとどまったのが、この九月二日であるから、そのなかに山田上等兵らの分隊もおったのである。

こうして暑さにたまりかね裸体になって休息中、突如敵襲。以後の激戦の模様は、日誌本文でみてほしい。四苦八苦して北斗まで退却した日本軍の動向をみるため、次に略図をかかげておくので参照してほしい。

その情況を『日清戦史』第七巻は次のように述べている（一九五頁～一九七頁）。

此間大莆林ニ於テハ二日夜以来住民殆ト逃走シ漸次不穏ノ情況ヲ呈シ三日午後二時頃ニ至リ約五百ノ賊市街ノ四面ニ来襲シ其近キハ約百五十米突ノ距離ニ逼レリ同地ノ歩、騎兵両大隊之ニ応戦シ三時三十分頃之ヲ撃退セシモ賊ハ遠ク退カス市街ヲ距ル約千米突ノ地ニ於テ我ヲ包囲セリ是ニ於テ千田少佐ハ後方部隊トノ連絡ヲ恢復センカ為メ第八中隊（一小隊欠）（長、大尉西



村貢之助〉ヲ他里霧街方向ニ派遣シ第七中隊〈長代理、中尉森邦武〉ヲシテ斗六街方向ノ賊ヲ追撃セシメタリ〈第七中隊ハ斗六街方向約一里ヲ進ミ其附近ノ賊ヲ駆逐シ夜ニ入リ帰還セリ〉西村中隊ハ途中三回ノ突撃ヲ以テ賊線ヲ突破シ他里霧街ノ南方約三千米突ニ到ルヤ約五百ノ賊ヨリ包囲セラレ午後八時纔ニ之ヲ脱シ他里霧街ノ近傍ニ達シ此ニ同地ノ遞騎哨ヲ収容セシモ〈他里霧街遞騎哨モ是日約五百ノ賊ヨリ襲撃ヲ受ケ辛ウシテ同地ヲ脱セシカ騎卒一名失踪シ馬匹ノ全部ヲ失ヘリ〉賊ハ厳ニ市街ヲ守備シ在ルヲ知リ夜半過出発同地ヲ避ケ北斗ニ向ヒ途中他里霧街北方約四千米突ニ於テ第六中隊〈長、大尉曽我千三郎〉ノ北斗ヨリ来ルニ会シ〈第六中隊ハ歩兵第一聯隊第四中隊ト交代シ歩、騎兵両大隊ノ大小行李ヲ率イ三日出発荊桐巷ニ一泊此ニ到リシナリ〉共ニ荊桐巷ニ帰リテ準備ヲ整ヘ両中隊〈第八中隊長ハ是時三小隊ヲ掌握シ在リ按スルニ枋仔頭ヲ守備セシ一小隊ハ曽我中隊ト共ニ到著セシナラン〉ハ是夜風雨ヲ冒シ他里霧街ニ向ヒ夜半同街ヲ奇襲シテ之ヲ占領セリ〈大小行李ハ五日第六、第八中隊ノ各一小隊之ヲ護衛シ大莆林ニ入リ護衛小隊ハ次テ他里霧街ニ帰還セリ是ヨリ先キ四日第八中隊ト連絡ノ為メ千田少佐ヨリ派遣セラレタル第七中隊ノ下士斥候（下士以下二十名）ハ同夜他里霧街ニ達シ第八中隊ノ此ニ宿営シ在ルヲ信シ市街ニ入ルヤ賊ノ射撃ヲ受ケ兵卒二名ヲ失ヒ五日大小行李ト共ニ帰還セリ〉此間大莆林ノ周囲ニハ賊徒依然出没シ四日以来小衝突絶エス荏苒六日ニ至リシカ同日夜半渋谷中佐及千田少佐ハ既記四日発ノ師団長ノ訓令ニ接シ直ニ諸隊出発ノ準備ヲ整ヘ歩兵第七中隊ハ七日午前四時三十分先発セシニ約一時間ノ後チ六七百ノ賊〈砲一門ヲ有ス〉突然南方ヨリ大莆林ニ襲来シ其勢頗ル猖獗ナリ乃チ歩兵第五中隊ハ同村南端ニ、騎兵大隊ハ東西両側面ニ拠リ之ヲ拒支七時過始メテ之ヲ撃攘セシモ賊ハ遠ク退カス約七百米突ノ距離ニ在リテ我ト対峙セリ次テ賊ハ東方及西方ヨリ更ニ二回来襲セシモ此頃第七中隊ハ千田少佐ノ命ニ依リ再ヒ大莆林ニ帰着シ第五中隊ト共ニ之ヲ撃退シ九時賊ノ隻影ヲ見サルニ至レリ〈此戦闘ニ戦死兵卒歩兵一名、騎兵一名、負傷兵卒二名、騎兵一名、歩兵隊ハ弾薬千五百十二発ヲ消費シ賊ハ百二三十ノ死屍ヲ遺棄セリ〉是ニ於テ諸隊ハ午後零時三十分出発シ途中若干ノ賊ヲ撃攘シツ、四時他里霧街ニ達シ歩兵第六、第八中隊ヲ併セ更ニ前進ヲ継続シ夜行シテ新虎尾渓ニ達セシカ河水漲溢シ在ルニ因リ已ムヲ得ス此ニ夜ヲ徹シ八日午前十時始メテ渡河ヲ畢リ騎兵大隊（二小隊欠）ハ樹仔脚庄ニ、歩兵隊ハ荊桐巷ニ宿営シ翌九日千田少佐ハ渋谷中佐ヨリ西螺街ノ附近モ亦不穏ナルノ報ヲ得午後一時出発シ途中第七中隊ヲ樹仔脚庄ニ留メ騎兵ノ掩護ニ任シ〈騎兵隊ハ北斗渓ノ未タ馬匹ヲ通過シ能ハサルヲ聞キ此ニ滞留セリ〉其他ヲ以テ北斗ニ到レリ」（第七巻一

九五〜一九七頁)。

『日清戦史』は、さらにこれを「台湾賊徒」の側から叙述して次のように述べている。

「然ルニ皇軍ノ先鋒一隊〈渋谷騎兵大隊千田歩兵大隊〉ノ九月三日懸軍深ク大莆林ニ達シタルノ報ヲ得当時嘉義附近ニ達シタル楊ハ機乗スヘシト為シ翌三日四面ヨリ不意ニ之ヲ攻撃シ他里霧附近ノ匪賊モ亦之ニ応シ同地ニ在ル皇軍ノ一小部隊ヲ襲撃シ此ヲ占領シ得タルモ大莆林ハ皇軍力拒セル為メ遂ニ之ヲ占領スル能ハス楊ハ遂ニ戦死セリ然レトモ賊ハ皇軍ノ寡弱ナルヲ侮リ敢テ遠ク退カス之ヲ包囲シテ相対セリ劉永福ハ此報ヲ得更ニ粛三発〈都司〉ヲシテ楊ニ代リ福字軍ヲ指揮セシメ七星軍ヲモ之ニ向ヒ前進セシメ七日更ニ大莆林ノ皇軍ヲ攻撃シ其退却ニ尾シ遂ニ其先頭ハ西螺渓ノ線ニ前進セシカ皇軍ハ悉ク北斗渓ノ右岸ニ退却シ敢テ前進シ来ラス」(第七巻三九〇〜三九一頁)。

このような激しい抵抗が生じた理由は、いくつかあげられている。『台湾民主国の研究』を著した黄昭堂氏によると、①南部にあって、台湾民主国のシンボルとなった劉永福将軍を心理的支えとした中南部の民軍の郷土愛と、②日本軍の戦死者二七八人に比し、台湾軍民一万四〇〇〇人に達したという多数かつ無用の殺傷が住民の敵愾心をあおったこと、③さらに日本軍の非人道性が、抵抗を強めた原因だという(黄昭堂『台湾総督府』一九八一年教育社刊、四一〜四二頁)。この第三の原因について、黄氏は次のように述べている。

「日本軍が大莆林を占領した当初、簡精華は道路を清掃し羊豚を屠って日本軍をもてなしたが、日本軍はかれに婦女二〇〇名を献じるよう命じた。かれがそれに応じなかったため、日本軍はその一族の妻女六〇余名を拉致して姦淫をほしいままにした。それで激怒したかれは抗日部隊を組織したのである(姚錫光『東方兵事紀略』第五巻)」(『台湾総督府』四二頁)。

約一か月北斗街に駐留した近衛師団は、一〇月四日、南進を再開、他里霧で約三〇〇〇の台湾軍と激戦、一〇月九日には嘉義を占領した。嘉義の陥落は、さしも強い抵抗を示した民主国側にも決定的ショックとなった。劉永福は、再三日本軍と交渉しようとしたがいずれも拒否されている。日誌にも一〇月一四日に劉の使者として英人が訪れたことが記されている。

一〇月一七日打猫に移ったのちは、兵力を消耗した近衛師団と第四旅団が交代すべく、近衛師団は同地で休養に入った。一〇月二二日には南部に上陸した第二師団による台南陥落の報もあった。劉自身も一〇月一九日に英国船スエルヌ号で台湾を脱出し、台湾民主国はついに崩壊した。

打猫での日々は戦済んだ平穏の日々であったが、この間に実は大事件がもち上っていたのである。

北白川宮能久師団長は一〇月一八日嘉義で発病し、一〇月二八日には台南で死亡するにいたった。日誌は一言もこの不祥事にふれていない。さすがに記録することが許されなかったのであろうか。あるいは極秘にされたのであろうか。

一説によると、北白川宮は嘉義郊外を視察中、台湾義勇軍の一刺客によって長柄の長刀様の中国刀で重傷を負ったとある（喜安幸夫『台湾島抗日秘史』八八～八九頁）。

事の真相は不明であるが、日誌はまことに旦々として平和である。

一一月五日、ついに第四旅団と交代、嘉義を通って一路南下し、一一月一三日打狗港から土佐丸に乗船、同月一八日には広島に着き、上陸、検疫を済ますと直ちに上京、凱戦の歓呼にむかえられ、一一月二二日、記念写真、下士官の祝宴で日誌はおわっている。

山田家に残されている賞状によると、山田豊次郎は一一月一〇日二等軍曹に任ぜられ、一二月三〇日には「明治二十七八年戦役ノ功ニ依リ勲八等瑞宝章及金五拾円ヲ授ケ賜」わっている。

この日誌は、当時の模範的な忠勇の一兵士の姿をまことによく伝えている。各処で奇異の目で中国・台湾の生活ぶりを描写しているかと思うと、一般民衆の生活の不衛生に驚いたりしている。国民の敵慨心をあおるための「チャンチャン」のごとき蔑称も、わずか数十年で近代国家となった、文明国日本という誇りを感じさせる。僅かの酒や食事の美味にはしゃぐ様子もいかにも単純そのものである。まして、戦争そのものについての疑問などはまったくない。

けれども、他方では、多くの戦友の死を目前にし、くりかえされる荼毘の煙に、形容こそしていないが、堪えきれないほどの悲しみと不安とを感じたにちがいない。また、大莆林で包囲された、時敵兵とまちがって竹林に無辜の老婆を刺したあやまちは、忘れえぬ心の傷として残ったことであろう。抹消もせずにこの犯罪を記したままに残した日誌の行間に、「忠君愛国のため」とくりかえし、「戦争中だから己むをえない」と自らにくりかえし言いきかせても、拭い去ることのできなかった、庶民らしい懺悔の心を読みとることができる。

彼が真底、戦争というものの悲惨さを、日誌に書きのこすのにいたるのは、一〇年後、日露戦争への従軍日誌においてである。その紹介は次の機会としたい。

読み本の最初の部分は、熱田公氏とともに月一回ひらいている「乙訓文化遺産をまもる会古文書部会」で、山崎達雄・原雅子・長谷川澄夫・米倉正裕・西田泰彦・矢田清一・山口義廣・横井邦彦・山田誠・平栄一郎・山田菊枝の諸氏に作製していただいた。作製者は文中に（　）で記入してある。御夫君なきあ

とも御先代の記録として大切に保存され、史料紹介を快く承諾して下さった山田菊枝さんをはじめ、これらの皆さんに厚く御礼申上げたい。

## 日誌　一

近歩第一聯隊第五中隊第三分隊

人名表

徳島県阿波国勝浦郡多家良村字宮井二十七番地

○　平岡大次郎

山形県羽前国東田川郡広瀬村字石野新田

○　72　72265　佐藤源吉

京都府山城国乙訓郡乙訓村字今里

○　20　77738　山田豊次郎

三重県志摩国英虞郡布施田村百四拾四番地

／　103　78961　剣山万吉

青森県陸奥国西津軽郡水之村大字野木四拾壱番地

／　105　76907　寺山作次郎

大阪府河内国交野郡津田村字津田三拾九番

／　106　77795　上田磯吉

福島県岩代国河沼郡片門村五拾番

／　107　81000　藤川駒次



愛知県三河国幡豆郡西尾町伊　六拾三番地

／　257　74824　福嶋芳三

新潟県越後国西頸城郡下郷村大字大貫五番地

／　109　74737　山下浅次郎

茨城県行方郡大和村字倉川卅一番

／　252　74738　永峰慶之助

三重県伊勢国員弁郡山郷村字麻生田七拾九番地

／　253　69004　伊藤米吉

千葉県安房国長狭郡大海村字　（以上山崎）

天南区

○　112　80093　永名米松

福島県岩代国行方郡原町字南新田弐拾三番地

／　114　83032　松谷寅二郎

埼玉県南埼玉郡塩止村字古新田五十七番地

／　115　80895　田口繁三

兵庫県播磨国明石郡玉津村字今津拾八番地

／　111　80571　橋本栄三郎

岡山県備中国阿賀郡中井村大字津々三拾九番地

／　97　77517　西益太郎

高知県土佐国永岡郡東豊岡永村字西峯

／　254　67685　三谷義久

## 宇品港出発後陣中日誌

三池丸ニ明治廿八年四月九日午前十時乗船此時輜重馬ヲ搭載ノ時ハ一興アリ各兵士ノ室ハ席ハ薄縁ヲ布キ高サ三尺ニ過キズ壱室ニ弐拾人トナシ各自足ヲ延シ横臥ヲ得ルノミ而シテ食物ハ拾人ニ一個ノ櫃ト盆ニ野菜ヲ盛リ茶ハ九拾人ニ小桶ニ一個ト薬罐ニ一個トシ飯ハ実ニ不出来ニシテ初メハ食スルニ堪ヘズ飯ノ時ノ外飲用水ハ壱日ニ弐合ノ規定ニシテ厠ハ一大隊乃チ千（以上原）八九百人ニ僅ニ五ケ所ニシテ殊ニ大小便ノ兼用ナレバ終日大支ヘニテ何時タリトモ厠ノ前ニハ拾人位ノ立番シテ待兼子タリ厠ノ内ハペンキ塗ノ臭気紛々トシテ鼻ヲ穿ツ当船ハ四月九日午前十一時半宇品ヲ解纜シ西北ニ向ヒテ黒煙ヲ吐キ万里ノ怒濤ヲ蹴リ清国ニ向フ航海中宮島ノ裏景次ニ諸島馬関ヲ過キシハ午前十一時頃ナリシ尓(爾)後玄界灘ニ出テシカ此日ハ晴天ニシテ風無ク極メテ静穏ナリシモ当灘ハ音ニ聞ク荒波ナレバ船ハ非常ニ動揺シ夜中弱兵ハ吐瀉声四方ニ起リ壮健ノモノモ少シク不快ヲ感ゼシメタリ翌朝ヨリハ波静カトナリ加ルニ少シ慣レタルヲ以テ皆平気トナレリ途中朝鮮諸国ハ海中ニ夥シク突起シ樹アレトモ皆小ニシテ岩石ヨリ成立チタリ一小島ニ土人アリ白衣ノ如キヲ着テ貝ヲ拾フカ魚ヲ釣ル如シ状ヲ見タリ朝鮮本邦ハ遙ニ望ムノミ亦一島ニハ人家アリ之ヲ望ムニ家ハ恰モ屋根ノミノ如ク実ニ不潔ノ如シ観アリ或ル海中ヲ見レバ二疋ノ鮫アリ相連ツテ汽船ヲ追ヒ来リ始ント一里余ハ仝(同)シ速力ニテ来リシガ遂ニ力尽キタルカ来ラザリシ朝鮮附近ノ海ニ潮水濁リテ勝チニテ亦二項程濁リテバ亦清ク恰モ大ナル飛白ノ如シ十日ニハ巨文島附近ヲ過キテ帝国汽船二隻外国ヨリ帰リ来リタリ此大洋ノ中ト邑(雖)モ鳩ハ飛ビテ波間ニ止マラントシテハ飛ビ帆檣ニ止ラントシテハ人ノ多キ故恐レ実ニ羽ノタルキニ困リシ風ナリ（以上長谷川）

十一日　ニハ支那海ニ来リ午後西ニ営城ヲ見タリ此日亦志賀浦丸ハ支那ヨリ帰リ来リ吾船ト行違ヒシニ彼ノ乗員ハ双手ヲ挙ゲテ吾々ヲ迎ユル風アリタリ。

十二日　午前一時半大連湾着吾国ノ汽船八艘着シ居レリ当湾ハ四方ノ島ニシテ木ハ一本モ無恰モ芝布如シ砲台ハ周囲ニアリテ堅固ナル処ナリ此処迄ハ軍艦ノ護送トテナリ平時ノ如シ柳樹屯ハ二三十町ノ処ニ見ヘ実ニ絶景ノ地ナリ十二日午前遙ノ山ニ吾国軍ノ行軍スル様ヲ見タリ最興ナリシハチャン〳〵ハ小船ニ乗リ来リ玉子ノ如キヲ売リ傍残飯ヲ拾ヒ居レリ吾兵士面白サニ諸物品ヲ投クレバ帽子ヲ取リ礼ヲ成セリ吾憲兵之ヲ追ハントシテ小舟ニ乗リ潜シ側ニ至リ棒ヲ以テ頭ヲ打テハ顔ヲ皺メテ遁クル様笑止ミ然レモ亦(トモ)来リ諸物桶ヲ拾フ顔色ハ真黒ニシテ身ニハ不

潔極ルヲ着ケ櫓ノ押シ方ハ大ニ異リ斯ル内吾運送船ハ続々来レリ出発以来十二日夕迄ハ晴天ナリシカ夜ハ少ク雨降リタリ気候ハ吾国ノ二月下旬ノ度合ナリ　追記　十一日ハ小生日直ナリシ

十三日　ハ晴天ニシテ福岡和泉丸ニ虎列拉アリタル旨達セラル封書ハ差出ス能ハズ端書ニテモ一枚丈ケ差出スベシノ命アリ郵内ニ出ス

十四日　晴天別に異状無シ

十五日　晴天午前六時三拾分大連湾ヲ解纜旅順口ニ向テ進発諸島前ト仝（同）シ午前十時旅順口着砲台基数ヲ（以上米倉）知ラズ砲台ノ周囲墻塀ヲ以テ掩ヒ其堅固ナル事言語ニ尽シ難シ汽船三双アリ大連湾ヨリ十八里軍艦四双護衛ノ風アリ砲台ニハ歩哨アリ砲数恰（マヽ）シ百七八十門ニ至ラン火薬庫アリ当港ハドツクアリ細キ湾ニ軍艦ヲ入ルニ足ル海岸ニハ人家七百戸斗アリ構造美ナリ其レヨリ奥ニ人家多クアリ軍艦一隻ハ海岸ニ碇泊セリ軍艦ハ扶桑海門筑波午後三時旅順口波止場入ル軍艦ニテ岸ヘ平ニ附クルヲ得ルノ良港ニシテ現ニ鎮遠号並ニ分捕ノ水雷艇ハ山ノ如ク碇泊セリ蒸船軍艦ノ未成品アリ市街ハ美ニシテ芝居アリ荷物ハ多分



アリ赤城艦アリ天後宮トテ閣ノ如キアリ壁ニ海不揚波ト記シアリ砲台多クニシテ之ニ通ズルニ墜道ヲ以シ其構造ノ厳ナル筆紙ニ尽シ難シ諸機械製造所アリ大ナル荷積機アリ日本ノ横須賀ニテモ不及ノ港ナリ斯ル堅固無双ノ軍港ヲ捨テ逃ケ去リシチヤンノ意ヲ思ヘバ笑止〳〵人家五百ニ下ラズ景色佳絶ナリ湾ノ幅三百米突位ナリ鎮遠ノ大ナル驚入レリ我兵多分アリチヤン〳〵ハ吾国人ニ使役セラレ吾国人ハ棒ヲ持追ヒ居レリ李鴻章ノ別荘アリテ美ナリ

支那ノ荷

馬車ノ輪

旅順ニアリ

軍艦ハ

扶桑赤城葛城筑波海門西京丸（以上西田）荷車ヲ引カシムル馬ハ平常ハ原野ニ離シ置キ使用ノトキハ連レ来ルナリ馬ハ凡て驢馬ナリ

十六日　晴天鎮遠ニハ四百有余ノ弾痕アリ当夜虎列拉アリテ予防法厳ナリ

十七日　晴天老鉄山砲台ノ下ニ上陸散歩ス中隊ノ告諭アリ衛生上ニ付

十八日　晴天征清大総督宮午前七時旅順口へ汽船ニ召サレ軍艦二隻護衛シテ御着キアリ凡三十分前遙ニ御召艦ノ見ユルヤ当港ニアル各軍艦ヨリ祝砲先一発宛打揚ゲ既ニ近クニヤ小蒸気船ニテ各将校出迎ヘ各軍艦並ニ汽船ノ兵士甲板上ニ整列シ君ケ代ヲ吹奏シ万歳ヲ唱ヘ奉迎セリ海軍ハ軍艦の檣に整列シタリ端艇ゟ水夫ノ乗ル時将官ニ敬礼スルニハ彼ノ櫂ヲ捧グナリ午前十一時半ヨリ上陸シ蛮子営砲台饅頭山城頭山威遠ハ砲台ヲ見慶副営ヲ見ル砲ハ廿四珊珈（サンチ）・十五珊珈（サンチ）ノ大ナルモノニシテ兵営ノ構造ハ有合ノ石ヲ以テ畳ミセメントニテ間ヲ詰メ門ノ前或ハ内ニ小ナル円形石ヲ以テ巧ニ積ミ妙ヲ尽セリ各兵営ニハ寺ノ堂ノ如キモノ一個宛アリテ色〻ノ旗ノ如キモノヲ吊セリ営内不潔ナリ砲ノ実弾ハ四拾貫以上アリテ力士と雖モ抱キ兼タリ榴弾ハ特ニシテ七八十〆モアラン旅順ノ砲台ノ数ハ三十有余アル由真カ土民ノ家モ有合セヲ以テ積ミタリ各戸門ノ如キ造リアリ本日征清渤海ニ向ハンガ為メ艦体ノ編成ナリ午後六時迄ニ拾一隻集合ス上陸ノ時食事ノ時興ナリ四斗拾斗（ヤこ）　軍艦十数隻集合分渤海方

十九日　午前九時ヨリ上陸水雷営ヲ見其構造ハ概シテ美ナリ水雷艇（以上矢田）ノ実弾ハ長サ弐間余廻リ三尺宏大ナルモノナリ而シテ之通運スル機械ノ整備セルニ驚ケリインクラインの如シ桟橋アリ皆鉄道ヲ敷キタリ支那ノ各兵営ニハ福ノ字ヲ書キタリ同国ハ牛ヲ使フニ鼻木モナク綱モナク田ノ中ニ独リ徘徊セリ婦人ハ一人モ出門セシメサルノ風アリ午前十二時聯隊ノ人夫用ノ力士角力アリ中等位ナリ東京新川曲持力士ノ幕内近衛担夫トテ来リシガ此角力ノ間ニ四斗俵ノ曲持アリ亦五人背負アリ本日ノ角力ハ極メテ興ナリシ清国ニ渡リ戦時ニアリテ斯ル遊興ハ日本男児ノ余勇（裕）アルヲ示シタリ

廿日　日直ナリ　晴天午前十時半旅順口解纜午後一時大連湾着運送船五十弐三隻アリ

廿一日晴天小口大隊ハ明廿二日午前十時大連港ヲ発シ仏蘭店ニ舎営スルノ命アリ（抹消）

廿一日晴天異条ナシ

廿一日　晴天午後六時大連湾三地丸ヨリ柳樹屯へ上陸シ同地ニテ露営ス畠中ニシテ漁岸ナレバ風殊ニ烈シク土塵大ニ起リシモ下ニ天幕ヲ敷キ毛布一枚ノミニテ上ニハ露凌キモナシ其寒キ言語ニ尽シ難シ夜間ハ波の音轟々タルト犬ノ遠ク吠ユルノミ

廿二日　午前六時露営地ヲ発（以上山口）蘇家屯ニ向テ進ム途中金州城ヲ見タリ其構造ハ煉瓦ノ如キヲ以テ畳ミ周囲ノ塀ノ高

サ二丈四五尺十町四面位ナリ各門アリテ閣ヲ設ク第弐司令部歩兵第十七聯隊在営セリ此城ノ傍ヲ通過スルヰ大風起リ土地軟弱ナル土質ナレバ土塵大ニ起リ目も開ク能ハズ十間前ハ見ヘズ道中馬首ニ這口口口耳目鼻ハ土ニテ各人ノ顔ハ安部川ノ如シ為ニ手拭ヲ顔ニ掩ヒ行軍セリ　支那ノ地勢ハ人家ハ少ク村落ハ二三里一ツアルヤナキヤ先ヅ無キ方ナリ道路ハ別ニナク天然道ノ如ク田ハ一反モナク畑ノミニシテ殆ンド沙漠ニシテ木ハ処々二三本アルノミ此日行軍ハ風ニ向ヒタレバ土砂飛来リ加フルニ沙地ナレバ尺進シテ三寸退キ実ニ歩行ニ困苦セリ午後四時三十里堡ヲ過ギ同五時蘇家屯ニ着ス此間ニ人家ノアリシハ僅ニ二三ケ所ノミ三十里堡並ニ蘇家屯ハ戸数五十ニシテ家ハ例ノ不潔ナリ午後五時半宿舎ニ付ク舎主ハチヤン〳〵ニシテ三帖七人詰メ敷物ハ黍殼（殼）ニテ巧ニ編ミ床下ニ火力ノ通リアリ座スレバ大ニ暖ヲ覚ユ夜ニ臥スルニ背大ニ暖ナリ屋敷ハ不潔チヤン〳〵ハ大小便ハ別ニ雪隠ナク垂レ流シナリ支那人の食物ハ黍団子ノ如キモノ婦人ノ足ハ五六歳ノ小児ノ如シ吾々自炊ニテ充分ノ興アリ支那人牛車ハ馬三五頭付但兎馬ナリ

廿三日　晴天自炊ニテ昼前屋敷ノ掃除ヲセシム三十里堡ニ兵站司（以上横井）令部アリ城跡アリ午後四時酒宴ヲ開ク酒ハ中隊ヨリ一分隊ニ五六合ヲ供シ私物正宗壱本然レトモ私物一合斗リ



松屋ニ分捕セラレタリ是レ此私物酒ハ大隊ニ四本ノ分ヲ一本ヲ奔走シテ求メシナレバ無理ナラズ肴ハ菜トシテ牛肉罐ヲ給セシヲ残シ置キ応用ス其法携帯鍋ヲ以テ煮テ食ス盃ハ広島厳島土産ノ丸キ巧セシヲ用ヒタリ戦地チヤン〳〵舎ニ宿シ此興ヲ催シ愉快ヲ尽セリ凡テ炊事方ハ山下永名率先セリ菜ハ味噌鮭罐詰醤油梅干ナリ食事用ノ器具ハ罐詰ノ売（殼）ノ如キヲ応用シテ用ヲ便セリ

廿四日　晴天当地ハ薪ハ非常不自由ニ付午前六時表ノ木ニ登リ永名採伐ノ労ヲ取ル三日分程ヲ得タリ襦袢袴下洗濯井端ニテ行フ三谷ノ助手ヲ得タリ菜ハ夕食罐詰鯖梅干ナリ五中隊ノ野沢正作早朝死亡ス郵便山惣出日出日（ヤ）口

廿五日　晴天午前九時ヨリ寺ノ前ニ於テ柔軟体操ヲ口行ス其後山ニ散歩ス十数ノ村落ヲ眼下ニ眺ミ遼東湾ハ掌ノ中ニアリ山ハ例ノ木無クシ階段ノ如キアリ美麗ナリ遠山一目ヲ得兎猪多分アリ兵隊之ヲ追ヘリ宿舎ニ驢馬ヲ以テナンバヲ臼ニテ挽カシム其曲リタル木ヲ以テ引木ノ如クシ馬ニ付ケ馬目を蔽ヒ人ノ使役ナクシテ独リ臼ノ周囲ヲ廻リ実ニ巧ニ粉ヲ作レリ妙々〳〵〳〵当地ハ河アレトモ天然ナク水ナシ平常食物ハ中隊ヨリ米ト菜ヲ生ニテ渡シ各舎ニテ自炊粥ヲ煮ル事アリ菜ハ梅干高野カマス味噌鮭醤油罐詰ナリ本日（以上山田）小生葱ヲ買ヒ味噌少シト醤油

ト塩ヲ調合シ葱ヲ煮テ鮭ノ頭ヲ粉ニシ出トナシ飯ヲ入レテ雑炊ヲ作ル味最妙ナリ

廿六日　晴天午前休暇朝食ニ梅干味噌漬ノ菜昼食ハ高野豆腐卵六個鯖ノ出シ但シ塩気ナキヲ以鮭ノ塩ヲ煮出シ菜ト成ス味広島出発後ノ最美味ナリ午後一時寺ノ前ニテ医官ノ衛生講話アリ寺ノ鐘ハ　ノ如シ其後山ニテ兎狩ヲ行ヒ無狩ニテ帰ル明日本狩ヲ行ノ命アリ帰宅スレバチヤン〳〵ヨリ高野豆腐ト割昆布ト肉類ノ煮タルヲ呉レタリ食スルニ忍ヒズ勿体ナクモ捨テタリ

廿七日　午前兎狩ナル筈ナレモ雨天ニテ取止メ午前豚肉中隊ヨリ供セシヲ味噌ト醤油ニテ煮高野豆腐ヲ煮テ昼食ノ菜トナス卵ハ弐銭乃至弐銭五厘多分買求置キ菜トス同夜前ノ空地ニテ鬼子軍歌君ケ代ヲ奏ス同日ハ携帯口糧ノコトニ油ヲ取ラル

廿八日　曇天少シク雨降ル午前六時三十分整列兎狩ヲ行フ風殊ニ烈カリシ兎二匹ヲ捕ヘ弐匹ヲ遁レシメタリ嗚呼惜キ哉九時半雨ノ為ニ帰舎ス午後〇時半整列兎狩セシカ一匹ヲ得ルノミ足労ハ充分ナリシ家豚ノ黒クシテ熊ノ如シ本日午後兎狩ノ節山数十頭放シ養飼セリ季候ハ梅ノ花満開ナリ（以上平）午後五時半野戦郵便ニテ封書一通無切手ニテ差出スベシ旨許サレタリ廿九日午後四時迄也廿八日午後六時中隊ヨリ一人ニ付七勺五才宛酒ヲ供セリ故ニ鑵詰肉ト葱を求メ合煮テ肴トナシ充分ト興ヲ尽セリ

廿九日　雨天殊ニ風烈シク舎内ハ雨漏シ障子ハ破レ閉口午後一時ヨリ風紀衛兵ニテ九ケ所ヲ五人持ニテ一時間毎ニ歩哨附加フルニ川ニハ水多シ故ニ渡ルニ石ヲ置キタレバ少シクアリ寺ハ平和寺鐘楼アリ本尊ハ観音仏ナリ他ニ聖像アリ地獄極楽ノ図アリ寺僧ハ髪アリ不潔ナリ

卅日　雨天午後〇時半交代帰舎諸物品ノ手入レ本日六十七銭ノ酒壱舛ヲ求メ盃ヲ傾ク然レモ酒壱舛ハ名ノミニシテ六合斗リナリ依テ之ヲ精算スレバ一合ノ価拾壱銭強ニ当ル是ニ於テ大隊ヘ松谷ニ正宗壱本ヲ周旋セシム価三十五銭四合入ナレバ九銭弱ナリ酒味佳美ニシテ価廉ナリ□□中隊ノ酒売人ヲ誹謗ス明日ヨリハ厳確ニ売ル旨達シタレモ皆不平ニシテ□フ事ヲ諾セズ笑止〳〵宴中鑵詰メ兎肉干瓢椎茸ヲ煮テ肴トス酒量ハ前トハ少シク過クルヲ以テ皆中酔ヲ催シ愉快極リシ兎肉モ美味ナリ〔辻方ヘ郵出〕

五月一日　晴天兎狩ヲ催セリ生ハ日直ノ故ヲ以テ残留ス（以上

山田菊枝）午後休暇異條（常カ）ナシ兎三疋ヲ捕

二日　晴天午前兎狩ヲ行フ弐ヲ捕四ヲ逃レシメタリ午後酒ヲ賜フ宴ヲ開ク肴ハ鑵詰に兎肉ヲ〔上六郵出〕用ユ充分興ヲ行フ壱舛弐合強

三日　晴天午前六時出発ニテ兎狩ヲ行ヒ四頭ヲ得タリ午後媾和ノ勅諭ヲ中隊長ヨリ朗読アリ午後韓銭ヲ求ム価七銭午後鶏三羽一ケ小隊ニ給フ夕食兎肉ヲ食ス

四日　晴天午前六時兎狩ヲ催ス無猟ニテ帰ル鰨壱枚弐銭五厘蠟燭二銭五厘婉豆一合一銭八厘ピスケット鑵詰食塩ヲ補給セラル六日河原ニおいて角力ヲ施行ノ旨達セラル

五日　曇天午前異條ナシ午後一時五十分整列シテ野沢正作の葬式ヲ行フ太キ木ヲ以テ標トナシ鑵詰売（殻）ニテ花器トナシ花ヲ折リ插シテ供ヘ中隊一般其列ヘ加ル中隊初メ士官敬礼ヲ行ヒ特務以下一同礼ヲ成ス野沢モ名誉す墓処ニハ七八人ノ墓アリ皆同様ノ供物ナリ支那国ハ戸口ニ柳色ノ紙貼リ六合同春百福並臻ルノ字ヲ書キタリ茶碗ニカスガイノ附キタルアリ午後酒壱升強分隊ニ賜フ



六日　晴天強風起ル本日角力取止メト成ル異条ナシ午後十弐時第三小隊山下軍曹来リ高橋豊松死去ノ由ヲ告ケ俄ニ平岡軍曹ニ来会ノ旨ヲ乞ヘリ該死亡ハ虎的ノ急性ナリ畑中ニテ火葬

七日　曇天強風起ル午後一時高橋豊松会葬アルヲ以テ有志者ハ来会ノ由公達セリ支那人ヨリ茶碗一ケヲ貰受ケタリ午後突然風紀衛兵ナリ寺ノ本堂の額ニハ霊昭南海ト掲ゲタリ夜少シク雨降ル

八日　晴天午前風紀衛兵午後一時ヨリ平和寺前ニ於テ奈良飯島加藤野沢の死者ノ追善ヲ成ス真言宗僧ニシテ衣ハ緑ニシテ袈裟ハ紅金襴ナリ下ニ洋服ヲ着テ靴ヲ穿チ依レリ読経後一場ノ説話アリ仏壇ハ机ノ上ニ毛布ヲ敷キ鑵詰殻ニ花ヲ插ス正宗弐本聯隊ヨリ供セリ読経後聯隊長参拝シ汝等ハ清国ニ渡リ戦ヲ為サズシテ病ノ為ニ金州半島ノ煙ト消ヘヌ吾々実ニ悼専一ナリ本日僧ヲ招キ追善ヲ為シ霊魂ヲ慰ムト告ク以下大隊長同将校拝セリ僧ノ説教ハ真言宗ノ本旨ニテ自力他力ノ本願ヲ述ベタリ

九日　曇天午前厠ヲ造ル午後兎狩ヲ行フ狐壱匹ト兎一ヲ捕フ狐ハ兎トハ逃遁方下手ナリ兎ハ妙ナリ午後ハ晴天終日雨ナシ午前風紀衛兵日直之事ニ付佐子軍曹ヲ攻撃シ大勝利ヲ得タリ

十日　晴天午前新聞ヲ見ル午後一時ヨリ角力ヲ催セリ旅団長閣下ヨリ賞品ヲ賜ル各自五拾銭ノ価値アリ見物ニハ酒一合パン弐枚宛ヲ賜フ余程ノ盛典ナリシ此日日直ニテ残留ス三日分糧食ヲ請取ル毛布紛失ノ故ヲ以テ大騒動ヲ成ス一分隊ヨリ顕出ス

十一日　晴天午前七時発ニテ兎狩ヲ行フ無猟ニテ帰ル午後休業兵卒ノ書面ヲ書キ遣ス明日ヨリ執銃運動ヲ行フ旨ヲ達セラル夕食後綱引ヲ行フ吾味方先勝後負ナリ

十二日　晴天此日書面一通差出ス今城角太郎宛野村西玉西成渋谷関宛切手一枚封入ス馬尾毛ヲ以テ時代紐ヲ作リ初ム十五日土城子ニ向テ出発ノ命ヲ下セリ靴ノ代用草履ヲ造ル莚ヲ解セテ造ル午前執銃演習ヲ行ヒ午後柔軟体操予行演習ヲ行フ

十三日　晴天午前散兵練兵教練ヲ行フ午後無練兵時計紐ヲ作ル鯨肉ヲ給セリ夕食後兎子軍歌ヲ唱ヘ天皇陛下万歳ヲ三唱ス解散

十四日　晴天日直ナリ午前油紙ヲ給セリ午前時計紐ヲ作ル午後チヤン〳〵ヨリ葱ヲ呉レタリ時ニ酬ニ酒樽ノ空ヲ与ヘリ以テ清国ノ木工具ノ少キヲ証スルニ足ル出発ノ準備ヲ成ス明日ノ朝食ヲ炊キ置ク

十五日　蘇家屯ヲ出発晴天大風起ル午前三時半平岡軍曹撰抜シテ先発ス五時生等起床朝食ヲ喫シ鑵詰瓶物ヲチヤン〳〵ニ与フレバ大ニ喜居レリ昼食携帯ス此日朝霧大ニ降リ山岳見ヘズ大風ニシテ土砂ヲ飛ス凡テ支那ハ風強シ途中人夫ノ糧食ヲ運搬スルニ遇フ二師団并ニ近衛軍夫ナリ三里村ニ到着ス昼食ヲ喫シタリ第八十三号王作粛ノ家ニ宿ス屋敷内不潔極リ舎内モ塵山ヲ成ス依テ兵卒ニ掃除セシメ坐ニ就キシハ午後弐時ナリ炊事ハ中隊ニテ設ケ一度に三食分ヲ炊ゲリ此日風ノ為ニ歟道ゝ寒クシテ手ノ冷ヲ覚ユ軍夫ハ二斗入俵一ツ背負ヒテ運搬セリ少シク雨降リタリ坐臥ニハ黍殻ヲ敷キ其ニ天幕ヲ延ベ坐スルナリ舎内ハ古臭キ事ニハ閉口チヤン〳〵ハ蘇家屯ニ比スレバ薄情ナリ夕食ハ麻布ニ包ミ菜ハ油紙ニ包ミタリ飯ハ麻布ニ粘着シテ実ニ殺饗ナリ斯ル事ハ生来未曽有ナリ菜ハ牛肉ノ鑵詰ノミナリ行軍途中五里間糧食運搬人夫ノ絶ユル間ナク連続スル様無数ノ多ナル実ニ驚入タリ

十六日　曇天午前五時起床麻布包飯ヲ喫シ準備ヲ為ス七時出発金州城内ヲ過ク町並人家ハ不潔ニシテ道路広ク日本人ト支那人ト混同シテ商業ヲ成スパン理髪牛肉店其物品ハ完備セリ金州門ハ永安門ヲ入ル構造最厳ニシテ屈折シタリ元清国行政庁ヲ見ル構造稍美ナリ後門外ニ神社アリ最美壮ナリ鳥居ニ換メルニフラ

フノ柱弐本アリ十数町ヲ距テ兵営アリ例ノ土塁ヲ設ク此日モ糧食多分運搬セリ南三十里堡ニテ昼食午併畠中ニテ堂堡ハ支那国ニテハ随分立派ナリ又戸七十戸斗の兵站部ヲ設ケ近衛給湯所ヲ置キタリ師団兵散歩セリ途中人夫多分遊歩セリ途中海岸ナレバ漁舟アリテ風景最モ佳ナリ午後各鎮堡ヲ斜右ニ望ミテ無名村ヲ過キ新寨子ニ着ス村落ハ三里堡ヨリ稍美ナリ于時午後三時半ナリ天然痘流行病アル由村中柳樹多シ食事ハ最不出来ニシテ小鑵詰一個三食分ナリ此処ノチャンチャンハ根性悪キト見ヘ赤キ紙ヲ貼リ病人アル風ヲナシ欺キタリシガ曹長来リ正ヲ知リ叱咤シテ後ニ抜刀セントシ頬ヲ打チタリチャンチャン恐縮セリ

十七日　晴天午前六時出発営城子ヲ過ギタリ近衛師団□□処アリ人戸五十戸斗ナリ双台溝ヲ過ギタリ第一野戦病院アリ其構造尤美ナリ白壁ニシテ門ヲ作リアリ此処ニテ昼食ス山下浅次郎痛足ニテ不時診断ヲ受ク故看護人銃持チテヤリタリ午後一時半長嶺子ニ到着掃除シて二時半坐ニ就ク井戸無自由ニシテ三ケ中隊二個故不時使役ヲシテ堀ラシメタリ酒一合宛供給セリブラン一本購求ス飯ハ中隊本部ニ炊ク菜ハ牛肉鑵詰梅干炊事ハ凡テ中隊ニテ行フ支那人ハ手籠ト熊手ノ如キヲ携ヘ人糞馬糞ヲ拾ヒ居レリ



十八日　晴天二人分遣宿舎ス薩摩芋買ヒ煮テ食ス時計紐ヲ作リ屋敷内ノ掃除ヲ成ス厠ヲ作リタリブランヲ六人集合ニテ酌ミタリ最美ナリ快亦快銀貨ヲ交換シタリ明後廿日大連湾ニテ荷物ヲ積ミ込ミ廿一日第一乗船ヲ初ムベキ旨アリ曽我大尉輸送指揮官代理アリ台湾ニ向ツテ出発スベシ明日中ニ洗濯ヲ成スベキ様達セラル菜ノ少キニ閉口味噌二匁斗奈良漬薄キ切二ツニテ喫食スルニ忍ビズ卵ヲ求メテ食スルノミ

十九日　晴天早朝洗濯ヲ成ス喫食ノ時ハ閉口昨日洗濯用ノ井戸ヲ掘ラシム卵価十銭八個ナリ聞クガ如クンバ兵士行軍中疲労シテ背嚢等ヲチャンチャンニ担ハシム最強シ一個半日里程拾五銭位ナリ午後湯ニテ身体ヲ洗ヒ清潔ヲ得タリ本日ハ玉子十四個食ス斯ル栄養ナル事ハ華族以上ニアラサレバ得ザル事ヲ成ス最妙ナリ支那人ノ鏡ヲ売リニ来リ其裏ニ男女交合ノ図ヲ書キタリ凡テチャン〳〵ノ鏡ハ如此ナリ妙也午後韮ヲ買求メ卵ヲ求メ混煮シテ食ス香気劇敷閉口

廿日　晴天午前八時中隊本部ニテ聖勅ヲ読聞セリ盛京省ヲ返却ス台湾ノ状況衛生上注意アリ中隊長の講話支那人蛇味線ヲ弾キ来ル室内ニ呼入レタリ歌ヲ唱ヘ巧ニ弾セリ歌ハ例ノ支那語ニテ日本ノチンガレノ如キ韻色妙ニシテ一時興ヲ添ヘタリ胴ハ日本

ノ三味線ニ比セバ小ニシテ竿ハ少シイ長ク見ユ糸ハ三弦ニシテ皮ハ蛇ノ皮音曲ハ同様拇指ノ先ニ竹片ヲ結附ケ二本指ニテ弾ス曲料弐銭ナリ此日芋六十銭価買求ム午後風紀衛兵ナリ支那人驢馬ニ荷物ヲ負ハシムルニハ大ナル篭二個ヲ附ケ一人ニテ五六個ヲ引率シテ綱モナクニハ鞭一本ニテ御スルノミ妙ナリ此日旅団長来ル午後風紀下番ナレモ出発準備且ツ陸海軍ヘ　聖尊ヨリ詔勅アリシヲ中隊長ノ朗読ニテ整列シ聞ク間ニ仮眠スル能ハズ寺山作二郎入院ス橋本栄二郎明日入院ノ筈ナリ此日弐日分ノ飯ヲ給ス携帯ニ困ム

廿二日　晴天午前三時西長嶺子ヲ出発旅順口ニ向フ同処裏ニハ兵営十ケ所アリテ吾軍屯在ス武庫二ケ処ヲ設ケ鉄道ヲ敷ク町並ハ立派ニシテ二階作リアリ商品ハ完備ス殊ニ師団長ノ宿舎ハ美ナリ町ニハ関門ヲ設ケ厳重ナリ鉄道ハ尚修理中近衛兵ハ台湾行故炎気ヲ凌クタメ団扇ヲ購求セリ当地日々ノ気候ニテ何ニヤラ変ニ思ハル午前十一時乗船四時沖合ニ出ツ先ノ塔載ニ比スレバ混雑一方ナラズ入変楽ニ而尚閉口船ハ広島丸ニシテ二大隊ヲ塔載ス□□ノ三池丸トハ狭隘ニシテ為ニ暑キ事土用ノ如シ殊ニ食事ノ時ハ流汗川ヲ成ス食後甲板ニ出スレバ涼風肌ヲ透シ爽快ナル事筆紙ニ尽シ難シ恰モ極楽ニ遊ブカト疑フ午後六時当港ヲ解纜シ正南ニ向ヒ万里ノ怒濤ヲ蹴リ黒煙ヲ吐キ運転ヲ初ム夜睡眠ニ困ム狭クシテ交叉シテ夜ヲ明ス

廿三日　午前五時起床晴天山東角ノ燈台ヲ見ル吾広島丸ハ随分動揺烈ナリ携帯口糧ヲ給ス此日ハ莎茫タル海ヲ見ルノミ夕食後鳥井ト面会ス甲板上ニテ軍歌アリ夜半左右小島二ツヲ見ル未知名

廿四日　晴天午前波静ニシテ恰モ湖沼ヲ過クガ如シ其絶景云ン方ナシ

廿五日　午前ヨリ暴風雨ニテ船体の動揺烈敷乗客ノ百中ノ九十九迄ハ酔倒テ吐瀉ヲ聞クハ絶ヘ間ナク食事ヲ成スモノ中隊ニ十人位ナリ小生ハ食スルヲ得ルモ飯ヲ取リニ行カサルニ依リ食スル能ハズ閉口乞フテ一はいヲ貰ヒ食シタリ夜間モ同ク船ノ動揺烈敷雨モ瀬ニ降リ来レリ

廿六日　晴天午前七時頃ヨリ少シク動揺止ミ兵卒モ生タル心持ヲ生セリ甲板上ニ登レハ右方乃チ西方ニ琉球諸島ヲ見ル大嶌ハ松樹翠々トシテ最モ佳シ島ハ連々トシテ散在セリ支那国ノ山トハ雲泥ノ差ニシテ青々タルハ流石日本ノ国タルノ価値アリ鬱蒼タル山岳ハ蜿蜒長蛇ノ如ク海水ト緑ヲ競ヒ山腹ニ人家数十相連

リテ絶景言ン方ナシ実ニ吾国情ヲ思想シタリ気候炎暑ナレバ水ヲ望ム事恰モ平時ノ酒ニ倍セリ一人ニ付一合宛三回ノ足ナルヲ以テ困苦セリ午後一時半世那張港ニ着ス同港ハ周囲蒼々タル山岡ヲ廻ラシ人家弐三百戸ニシテ土人ニは言語通ス県庁ヘ弐里中城湾ナリ午後五時琉球土人芋ヲ携ヘ手土産トナシ吾広島丸ノ拝覧ヲ乞ヘリ其弐人丈ヲ許ス土族ナリ土人ノ舟ハ太キ木ノクリシモノニテ細キ形ナリ女ハ髪ヲ結ヒ手甲并二足ニ貝ノ如ク入墨ヲ成シタリ是レ土地ノ風俗ナリ服ハ男ト同様ナリ手ノ甲ハ黒キ事笑止〳〵泡盛壱舛十八銭位口八厘砂糖一斤三銭五厘琉球ニハ兵営モアル由同国人ヨリ飛円如キヲ買ヘリ夜間暑キ事土用ノ内ノ如シ密室ナレバ閉口〳〵

廿七日　晴天日直ナリ食事節用茶ヲ分配ニハ一人ニ付一合六勺トシ其状宛ラ口酒ノ施行ノ如キ帝国軍人ニ取リ気ノ毒ノ至リナリ舟中喉ノ喝スル事無限酒一合一円ノ価値アリ本邦人商買アリ物品安価午後五時台湾ニ出発す

廿八日　午前晴天航海中船ノ運転ヲ止メ軍艦ト台湾ノ状況ニ付信号ニテ事情ヲ問ヒ終リテ亦進行ス午後曇天少シク雨降ル書面壱通印紙貼用ニテ山惣ヘ差出ス午後弐時輜重駄馬一疋死亡ス半死ニシテ水葬ス憫然ナリ午前朝食ニ粥ヲ供ス其味ノ美ナル事古



今未曽有ナリ是レ喉ノ喝スル故ナリ時ニ尚昼食を望ムモノ多シ然レモ得ズ

廿九日　晴天ナレモ霧降リテ遠望スル能ハズ午前途中ニ二三度運転ヲ止メ台湾ノ状況ヲ計ル午前十二時三雄鼻着午後六時半漏（涙）底ノ南方約六百米突之処ニ露営ス上陸ノキハ船充分ニ岸ニ附カズ膝迄入手（水）ス今夜ハ暑クシテ

四月十七日命令
艸履厳禁靴ヲ拭（マヽ）クベシ
茶湯ヲ漏スベカラズ
生水ヲ飲ムベカラズ
洗面午前六時前ハ甲板ニ
登ルベカラズ
（抹消）

水ヲ欲シ其困苦ナル事流石ニ戦時タルノ価値アリ夜間浪音轟トシテ耳ヲ破リタリ上陸ノキ河二ケヲ渡リシニ既ニチヤン〳〵ノ軍刀一振旗一旒ヲ得ルヲ見ル感嘆ス海岸ニ椰子樹鬱々トシテ風景最佳シ亦馬ハ上陸ノキ游泳セリ上陸ニハ半日一夜ヲ費ス土人ノ家屋ノ周囲ニハ竹樹木多クシテ芋苗ハ繁茂セリ苗ハ弐番草ノ度ナリ河水ハ清々トシテ飲用ニ適ス只喜ブベキハ山ノ緑色ヲ呈スルニアリ

三十日　晴天午前武装検査ヲ行ヒタリ竹ヲ徴発シ急造廠舎ヲ造ル為ニ暑気ヲ凌快ナリ凡テ戦地ニアリテ何時敵ノ襲撃スルモ斗ラレスト雖モ尚恐ルノ心地ナク恰モ漫遊ノ思ヲナス軍人タルノ義務自然知ラズ〳〵胆ヲ強クス

背負袋中
携帯弾薬　口粮悉皆
ガンメイ　飯薬包麻布
足袋　□備器具
外部　工具　鍋　草鞋
雑嚢　水筒
　中ニハ酒□□ヲ容ル
三角巾認識表　手帳
残スモノ背嚢　靴壱足宛

菅原　七銭　かり
三谷　三銭　かり
田口　弐銭五厘　かり

小豆ニ渋柿ヲ入ルレバ恰モ砂糖ヲ入レシ同様ナリ其量

一弁ニ　五六個

三時四十分
　晝飯携帯
　雑袋ニ日用品を入る
　上陸時ハ背嚢ハ用セ（マヽ）
　天幕工具携帯口糧
　鍋

赤白青ノ旗ヲ樹ツ

軍人眼中有天子知有天子不
知己何為生為天子生何為
死為天子死大丸如斗小丸挑
乱飛雨注目不逃目不逃
兮進塞旗即為天子致命
時
右ハ松本正純君カ近衛師団長
殿下ヘ献セシモノナリ

越後国ハ盆七月ハ若衆中ハ毎夜

三味線ヲ首ニ掛ケ弾キ遊ブ也

（中略）

弐拾四日　午前四時　青山停車場発

七時三十分八時三拾分まで朝食

沼津ニて

午後三時より四時まで浜松ニて

夕食

七時四十分ヨリ八時四十分まで

名古屋ニ休　酒ヲ給ス

廿五日　午前弐時より三時まで馬場ニて休

六時四拾五分ヨリ九時四拾五分まで

休息朝食神戸ニて

午後七時五十三分より八時五十三分岡山休

広島廿六日午前拾弐時十七分着

## 日誌　二

五月三十日　続キ午前合鴨鶏芋葱砂糖ノ如キヲ多分徴発シテ食ス第一上陸ノ時ハ千五百人程ノ清兵アリシガ第二聯隊上陸ノキ射撃セシヲ以テ充分岸ニ就カザル内ニ海水ヲ徒歩シテ散兵シ攻



撃スレバ雲蚊ノ如ク敗走セリ清兵一人討死セル屍ヲ見物スルモノアリ胴ヨリ肩ヲ抜キタリ其他一二人斗リアリ小隊長外衛兵一名兵卒五名斥候ニ行クチヤン〳〵土人茶ヲ煮シヲ供セリト夜間二度歩哨附ヲナス為ニ充分眠ル能ハズ第二聯隊下士一名戦死セリトノ風聞アリ工兵ハ暫時舟橋ヲ作ル妙午後芋多分徴発シテ煮テ食ス夜間舎内雨漏洩シテ閉口

三十一日　雨天午前五時半分隊一同廠舎ノ改造ヲ為シ幸ヲ得タリ午前胡瓜二本五銭家鶏卵四個五銭ニ求ム昼食ノ菜トナス購求ノキ五銭白銅ヲ喜ブ風アリ拾銭銀貨ヲ厭フ胡瓜モ之味良シ午後台湾総督樺山大将来リ巡視ス海軍ノ服装ニテ他将官一名随行当地ハ道路不便ニテ運搬上不都合ニ付外套ヲ脱シテ代理ニ弾薬三十発ヲ渡サル当地ノチヤン〳〵ハ有富家ニシテ絹ノ袴ヲ穿ツモノ往々ニシテ蝙蝠傘ヲ携フモノアリ夜ハ明日出発ノ準備ヲ成ス為ニ湯ヲ沸シ水瓶ニ詰メシヲ以テ夜半過クル迄一同眠ル能ハズ懐中ソツプト卵ト煮テ食ス美味分隊ニ小刻煙草八十コウル九個国光大包二百匁弐個渡サル恤兵部ノ寄贈パン六　佃煮六個

六月一日　曇天午前八時三貂鼻ヲ出発シ西北ニ向ツテ行軍ス道路極メテ険阻ニシテ僅ニ徒歩ニテ一列行進ヲ得ルノミ山岳ハ蒼々トシテ渓水ハ涓々トシテ流レタレモ自由ヲ得ズ此日ヤ曇天ニ

シテ空気密閉シテ風無ク熱気肌ヲ煎リ其苦シキ事言語ニ尽シ難シ十数町ヲ行進スレバ流汗川ノ事衣ヲ湿シテ不快ヲ感ジ流石ニ戦時タルノ価値アリ為ニ川水ヲ汲シテ飲用ス其味ハ死スルモ忘レ難シチヤン〳〵ハ山ニ逃レタル風ニ見ユ此行軍ニ勿体ナク師団長殿下ハ草鞋ヲ穿チ竹杖ヲ携ヘラレ徒歩セラレタリ是レ乗馬モ通行スル能ハサレバナリ深ク思ヘハ平時ニアリテハ玉簾ノ裡ニ静居セラルヽノ身ニアリナガラ斯ク苦労セラルヽハ恐レ多ク且ツ御奮励ノ程察セラルチヤン〳〵ノ家ハ青壁作リアリテ耶蘇教ノ家ノ如キハ実ニ美ナリ午後三時頃双渓ニ到着ス同処ハ市街ニシテ町並良ク人戸百余ニシテ構造石造ナリ土民ハ大抵遁進セシ風ニシテ内強胆ナル者僅少残居リテ商業ヲ成ス遁逃セシ家ニハ豚并鶏鶩ハ残在リタリ裏ノ川原ニ敵ハ銃弐拾挺斗焼捨アリ多分吾軍分捕シテ破壊セシナリ吾軍ノ徴発セシ鶏ノ雑腸ヲ捨テタリ夜ハ砂糖異様ノ瓶詰メノ酒ヲ求メテ飲ム味最良クアルコール強シ価弐合入弐十銭ナリ氷砂糖ヲ売レリ亦明日ノ飯ヲ煮ニテ多忙ナリ雨ハ瀬ニ降リ来リ身体何トナク湿ヒテ不快極ル加フニ不潔家屋敷故閉口ス斯ル時トモ新兵ハ非常ニ勉強スルヲ見レバ感涙ニ堪ヘズ

二日　雨天午前七時出発行軍中炎熱ニシテ渇水ニテ閉口ス殊ニ金山トテ極メテ険阻ノ山岳ニシテ道路ニハ三貂鼻出発以来悉ク石ヲ敷タレバ割合ニハ歩行シ易シ此山ヲ登ルヰハ困苦ナル筆紙ニ尽シ難シ上下一里余ニシテ山頂ニ仮小屋ヲ作リタルアリ師団長殿下御休息アリ上ル中途ニ吾軍ヨリ茶ヲ沸シテ兵士ニ供ス其香味忘レ難シ山ヲ下レバ第二聯隊ノ負傷者二名アリ担架ニ乗リタリ道中ハ山河多シ水ハ清ク飲用ニ適ス各兵士水ヲ飲ミシ量ノ多キ斗ル能ハズ午後三時金皎省ノ約三百米突手前ニテ大休息ヲナシ四時川原ニテ露営スチヤン〳〵ノ死体此附近ニ山ノ如ク積ミタリ此処ハ人家数十戸アリテ兵営ヲ設ケタリ前日第二聯隊ノ之ヲ破ル処トナリ吾兵ノ露営処ハ川礫ニシテ材料ヲ集メテ舎ヲ作ル家豚ヲ徴発シテ食ス良味午後十一時ヨリ吾ハ外衛兵ニテ一夜寝ラズ凡テ此行軍中ハ夜ハ十二時過ニ非ラサレバ眠ル能ハズ事務ノ為メナリ夜間時々砲声ヲ聞キタレバ外衛兵中ニモ愉快ニ一夜ヲ明ス不幸ニシテ敵来ラズ翌五時帰営ス

三日　雨天愈〻本日ハ敵兵攻撃ノ目的ヲ以テ行進ス第一聯隊ノ二個中隊ハ□早田□□ノ率テ尖兵トナリ四ケ中隊ヲ率テ中西少佐前兵長二ケ中隊ヲ率イテ児島大佐前衛本隊ナリ第二聯隊ノ一ケ中隊宛ハ左右側衛トナリタリ途中チヤン〳〵死体続〻アリ山岳ノ麓ニテ命令異リ第五六中隊ハ前兵トナリ右側ニ出ツレバ敵兵一中隊斗リ山頂ニ防禦陣地ヲ占ム第五中隊第一小隊先発シテ是ト戦フ事三十分ニシテ第六中隊ノ掩護ニテ第五中隊ハ吶喊ナ

ス敵兵蜘蛛ノ如ク退去ス吾軍勇シテ之ヲ占領シ万歳ヲ祝シ旭旗ハ翩々トシテ山頂ニ閃ク吾海軍モ是ヲ見テ祝砲数十発ヲ放ツ海岸迄ハ三千米突ナリ是ヨリ基隆ノ方向ニ行軍ス第五中隊ハ後尾ヨリ第二ニアリ基隆ノ約三千米突ノ処ノ山頂ニ休息是ヨリ旅団長ノ指揮トナル右方第二聯隊左方ハ第一聯隊ナリ行進ヲ初ルヤ雨ハ篠ノ如ク降来リタレバ厭フ事ナク行進中第二小隊ヨリ左翼ハ連絡ヲ失ヒ進ム処ヲ知ラズ困苦シナガラ前進シテ基(隆)留ノ市街中ヲ過キシハ早占領済ナリ故ニ尚進ンデ二ケ小隊ヲ以テ山岳ニ登ル途中水田ヲ通過ノ際に敵弾雨ノ如ク来ル吾一尺斗前ニ砲弾一発来ル暫ク掩蔽下ニアリテ状況ヲ見ル左方ヨリ第一聯隊第五中隊七中隊ハ攻撃ス。第弐中隊第八中隊ハ右方ヨリ進ム敵ハ砲塁ヲ築キ大砲ヲ置キ防禦ス弾丸雨飛音響ハ万雷ノ一時降ル如ク大激戦ナリ敵兵ハ吾軍ニ砲隊ヲ無キヲ頼ミシカ吾砲兵徒歩ニテ山砲ヲ負ヒ基隆ノ南方ノ寺院ノ影ヨリ不時ニ発砲ス敵兵大ニ驚キ一時小銃弾ヲ止ム勢ニ乗シテ急射撃ヲ行ヒ次テ吶喊ヲ成シ三時間ニシテ遂ニ砲塁ヲ占領ス第八中隊第二中隊ト第五中隊ノ第二三隊進テ塁中ニ入ル他隊ハ山岳ニテ討方止ヲ為ス分捕品山ノ如ク銃剣弾薬其他金銭旗ノ数ヲ知ラズ此日ヤ道路泥濘ニテ閉口第五中隊ニハ死者ナシ砲台中ニテ旅団長万歳ヲ唱ヘ遂ニ山ヲ降リテ基隆ニ宿営ス此地土民ハ皆戸ヲ締メタレバ入ル能ハズ為ニ軒ノ下ニテ火ヲ焼キ衣服ヲ炙ル身体ハ湿セザル処ハ一ツモナク



衣服ヨリハ雨水点トシテ垂ル其不快言語ニ尽シ難シ夕食ハビスケットニ牛肉罐詰メ夜中湿衣ノ為ニ寒クシテ眠ル能ズ困苦ス今夜捕虜多クシテ縛セラレ終夜悲鳴居レリ其他市街死体山ノ如シ基隆ノ敵兵約一万以上盛京省ノ敵トハ強シ

四日　曇天午前朝食ハビスケット罐詰ナリ午前衣服武器ノ手入ヲナス昨日ノ慰労トシテ午後豚肉多分ト焼酎ヲ供セラル口サヽギ胡瓜ヲ徴発シ多料ニテ満腹ス戦後斯ノ如キ事愉快〳〵旅団伝令ニ聞クニ旅団長殿下ハ各兵士ノ昨日ノ働ヲ賞シテ止マス為ニ給養上ニ付非常ニ各兵士ヲ労ヒ聯隊長ヘ照会セラル各官部ノミ給養良シキヲ責メ却テ兵士ニ増給スベキ旨達セラル当地ノ海岸ニハ独乙人ノ税関アリテ稍美ナリ軍艦ノ横付ヲ得ルナリ市街ノ周囲ニハ五六ケ処ノ兵営アリ最厳ナル処ナリ砲台ヲ設ク本日ハ小生日直ナリ此度ノ戦ハ天祐ニテ今ヤ攻撃ニ着手セントスルヤ雨ハ篠ノ如ク降リ来リタリ吾軍是ニ乗シテ攻ム為展望ニ苦ム吾軍ノ狭隘ヲ通過スルモ山頂ヨリ見ル能ハズ因テ弾丸モ命中セズ実ニ吾国ニハ天祐アルトハ果シテ真ナリ此地ハ往時仏国攻撃ノ時ハ敗ヲ取リシナリ是ヲ以テ考フレバ吾兵威ノ程察セラルベシ分捕品銃器弾薬広々ノ兵営ニ山ノ如シ攻撃ノ時小生等ノ市街ヲ通過スル時ハチヤン〳〵ノ死体途中ニアリテ実ニ惨状ヲ極タリ

五日　晴天午前宿舎ヲ移転ス兵営ナレバ佳ナリ美ナリ吾々ノ宿舎ノ定ルヤ第六中隊第三小隊ノ舎ニ爆裂弾破裂シタリ吾々ノ舎ト距離百五十米突ナレバ轟々トシテ舎ノ手入ヲ成シタリシヲ驚カシム其死傷者将校田中中尉下士兵卒十八名其状ヲ見ルニ実惨嘆ニ堪ヘズ衛生隊幷ニ医官ノ奔走一方ナラズ第五中隊ハ午前彼ノ舎ニ宿スル筈ナリシガ都合ニ依リ取止メトナリ僥倖ニテ害ヲ免ル事ヲ得タリ基隆人家一万五千ニシテ諸商アリ要害堅固ナル旅順口ニ匹敵セリ聞クガ如クンバ師団長殿下ノ舎ノ床下ニ敵兵一名武装シテ潜伏セルヲ輜重是ヲ発見シ直ニ其首ヲ斬ル喃ンノ仕業ナリ多分賞与アルベシ第八中隊ノ兵外衛ノ節敵ノ少佐相当ノ官部ヲ突殺ス

六日　曇天午前十一時出発ス途中鉄道線路ヲ通過シテ六時ニ到着ス鉄道ニハ鉄橋ヲ架シ構造厳ナリ○

---

台湾諸処ニハ日本ノ火輪船一隻ヲ沈没セシメタル者ニハ賞銀一万両将官一名ヲ捕ヘシモノニハ六百両ヲ与フ旨ヲ掲示シタリ故ニ土民モ中ニハ叛意アリテ第六中隊ノ爆発弾ヲ蒙リシモ土民ニ嫌疑アリ結果如何ナリシヤ

---

○途中緩々街ノ兵営ヲ過ク其構造例ノ通リナリ夜ハ豚肉鶏肉ヲ供セラル夜間ハ歩哨附ニテ眠ル能ハズ亦蚊多クシテ睡ルヲ得ズ六肚ハ人家十数軒ニシテ舎営スル能ハズ為ニ露営ナリ

台湾ハ六月五日頃ハ吾国ノ穂出シ乃至穂ノ出掛ケナリ

七日　雨天午前五時起床七時ノ出発ニテ錫口ニ向フ途中鉄道線路ノミチヤン〳〵ハ多分戦時ノ為メ山ニ逃レシモノ続々帰リ来レリ中ニハ篭ニ乗リシモノアリ皆蝙蝠傘ヲ携ヘタリ午前十二時錫口ニ到着ス人家町並ニシテ家屋美ナリ諸商アリテ殊ニ桃菓子ヲ売レリ当市街ニハ遊廓アル由商家ニモ婦女ノ美ナルアリテ日本国ニ恥ジズ凡テ土人ハ盛京省ニ比スレバ余程美ニシテ諸衣袴ヲ附ケタリ亦羅紗ヲ着ス市街ノ後ニ川アリテ最便ナリ人家モ煉瓦石ニテ積ミテ竈モ西洋風ナリ小生等ノ舎ニ就クヤチヤン〳〵ハ大ニ喜ベリ是レ前ニ清兵ノ市街ノ物品掠奪セシヲ以テ吾々来ルニテ大ニ安堵セシモノト見ユ故ニ茶ヲ煮テ供スヤラ煙草ヲ出スヤラ事々物々媚ヲ呈スルモノノ如シ本日桃ヲ求メテ食ス最良味ナリ亦砂糖ヲ求ム最高価ナリ此頃ハ食物ハ南京米ニテ臭気紛々トシテ大ニ閉口実ニ腴スルヲ覚ユ台湾到着以来雨ノ降ラサル日ハナク聞ク如クンバ台湾ノ雨多シテ年中湿気勝ナリ夜十一時ヨリ外衛兵ニテ眠ル能ス困難ス

八日　曇天少シク雨降ル午前四時五十分出発台北ニ向テ進軍ス途中軌道ナリ台北ハ金州城ノ如ク周囲十町方面煉瓦造リナリ中ニハ水田アリ台北府中アリ構造最厳ナリ然レモ屋敷ハ不潔ナリ市街アリ然レモ半数焼失セラレタリ此処ニテ宿営スル筈ナリシモ都合ニテ中止足ニ於テ健壮ノ者ノミニテ尚進ス第五中隊第二小隊前衛第三四分隊尖兵ナリ此日敵兵アル積ナリ関東ノ山岳ニ敵兵アリテ発砲ス吾敵兵探索ス前衛準備ナシテ進ム抵抗ナシ途中泥濘ニテ行進スルニ苦一人トシテ倒レザルモノナシ出岳ノ砲台ハ皆焼捨テ逃レタリ吾尖兵道ヲ行過キ亦帰来レバ本隊ハ宿営セリ関東人家弐百戸位ニシテ不潔焼酎ヲ求メテ労ヲ慰ム食物ハピスケット糒ナリ菜ハ雑魚ナリ

九日　晴天関東ヲ午前六時出発淡水ニ向フ行路泥濘窮ス午前十時半戸尾（滬尾街）ニ着ス敵ノ残兵前面ノ山ニテ兵営ヲ焼キ捨テ川ヲ渡リテ軍門ニ降ル一ノ抵抗ナシ兵数七八百人以上皆荷物ヲ携ヘ弾薬ヲ持テリ生等監視ニ行ク敵兵営舎ニ押込メ着剣ニテ歩哨ヲ置ク後荷物ヲ改メ解散セシム中ニハ銀貨多分持テリ多分掠奪セシモノナラン解放ノ時ハ実ニ愉快ナリ当市街ハ便利ノ地ニシテ青物其他物品完備ス商状盛ナリ領事館アリテ軍艦四隻碇泊セリ其他蒸気船アリ夜間敗兵多分処〻ニ集合セリ生等風紀衛兵ニテ人民保護ノ為メ憲兵ノ保助ニテ巡察ス異状ナシ此地ノ土



民ハ非常生等ヲ頼ミテ敗兵ノ暴ヲ為ナセシヲ告グ為ニ行処土民ヨリ媚ヲ受ケサルナシ清兵意気地ナキニハ驚入レリ八百人モアリナガラ僅ニ吾十人位ノ監視ニ左右セラル、状笑止〳〵吾等宿舎ハ宿屋ニテ初メ敗兵多ク宿セリ家屋広クシテ二階作リナリ此地ノ清兵ハ皆散了セシ風ナリ

十日　晴天午前八時風紀交代ス風紀残兵ハ前面ノ山ニ斥候ニ行異状ナシ午前ウトンヲ食ス豚脂多シテ不快生宿舎ハ宿屋ナレバ家屋清潔ニシテ日〻掃除ニ来レリ亦炊焚ノ労ヲ取ル嘉スベキナリ夜弐時頃前面ノ山ニ砲声瀬ナリ

十一日　晴天午前夏服ヲ供セラル午前捕虜ヲ護ス乗船セシムルニ困苦ス悪臭紛々タリ捕虜ノ命ヲ用ヒザルモノハ之ヲ鞭ツ笑止船中賄方良ナリ万国丸チヤン〳〵ヲ塔載ニ苦ム上陸セシムルニハピスケットヲ与フ夜ハ酒ヲ求メテ飲ム日本酒ヲ飲ム亦積ナリ福州長岐ノ燈台ノ下ニ至リ捕虜ヲ上陸セシム爾後楽ナリ

十二日　晴天船中ニテ消日午後五時帰淡ス当港ノ海岸ニハ砲数門ヲ置キ要害堅固ナリ捕虜ノ数千七八百人ナリ上陸セシムルニハピスケットヲ与フ荷物分配ノ時ハ興アリ淡水ハ外国人家屋多ク亦構造宏大ナリ捕虜上陸ノ地ト比スレバ雲泥ノ差アリ

十三日　晴天午前九時戸尾ニ帰ル午後舎ヲ移ス中々美ナリ海岸ヲ眺望シ絶景夜間涼風来リ悠々ナリ炊事ハ小隊各個ニ為ス食パンヲ食ス川添中尉虎的ニテ死亡ス

十四日　晴天午前大隊長交代ニ付海岸ニテ中西少佐ヲ送ル悪疫流行ニテ衛生上尤厳ナリ海岸アル軍艦ハ八重山浪速千代田ノ三艦ナリ本日舎内起居定則ヲ伝達セラル午後異状ナシ

十五日　晴天午前七時半ヨリ風紀衛兵ナリ久保沢太郎死亡ス流行病伝播セリ風紀衛兵ニテ夜間巡察ニ困苦臭気紛々チヤン〳〵ハ夜番ヲナシ木魚ノ如キヲ打チ廻レリ

十六日　晴天下番ニテ異状ナシ平日ハ野菜ノミナレモ本日ハ鶩鳥ノ肉ヲ給ス書西山内ヘ出ス

十七日　晴天本日ハ台北ニ於テ台湾総督府ノ民政開始ニ付祝典ノ為メ兵舎ニ急造国旗ヲ掲ゲ祝意ヲ表シ亦鶩鳥ノ卵等ノ馳走アリ将校一円下士七十五銭兵卒五十銭宛ノ酒肴料ヲ賜フノ旨達セラル海軍ハ軍艦ニ旗ヲ掲ケ祝意ヲ表せり

十八日　晴天午前異状ナシ午後日本人ノ女子ヲ見ル宛ラ日本人ノ価値アリ水浴ヲ為ス午後十二時頃久保沢太郎死亡ス

十九日　晴天午前ヨリ外衛兵ニテ砲台ヲ見砲ハ四門ニシテ三十弐珊知二十八珊知二十四珊知混交ナリ実弾数多ナリ兵営ハ穴倉ノ如クシテ構造稍美ナリ墜道アリテ門鎖厳ナリ砲ハ遊底破壊シタリ

廿日　風紀下番異状ナク午後十時ヨリ川口楠松死亡ニ付火葬ニ行ク徹夜

廿一日　午前六時帰舎手紙ヲ認メ山田上田小田渋谷今城野村西利安田西川役場西吉せきニ

廿二日　午前台北ニ剣山ノ入院ヲ送リ中隊ノ諸用ヲ達ス病院ノ在所分ラズ閉口ス昼食ハ大隊ニテ食ス帰路舟砂ニ坐ス入水シテ之ヲ押ス午後八時淡水ニ帰ル予備後備現役延期ノモノ台湾ニ残リ行政官吏并郵便電信商業上ニ付残留志願者ヲ調査ス

廿三日　晴天午前八時半微少ノ地震アリ第八中隊ノ兵水ニ溺レチヤン〳〵ト五中隊ト合力ニテ救助ス午後七時ヨリ小隊長ヨリ衛生上ニ付講談アリ夜十二時半中隊一般大騒ギヲ為ス是一小隊

ノ軽躁家ノ飛出シテ何事モナキニ驚キシナリ

廿四日　晴天風紀衛生兵ナリ異状ナシ

廿五日　雨天午前将校斥候ヲ派出ス異状ナシ十時ヨリ雨降本日ハ新竹ノ敵兵ヲ攻撃ノ由同地ヨリ帰リシ負傷者ノ談ヲ聞ク

廿六日　雨天夏帽夏襦袢フランネル襦袢ヲ供セラル夜間林田死亡ス

廿七日　晴天ニシテ少シク雨降ル風紀衛兵ナリ

廿八日　晴天異状ナシ日直シテ炊事ノ掃除ヲナス

廿九日　風紀衛兵ナリ晴天異状ナシ砲台ノ倉庫ノ分捕ノ銃器百三十挺ヲ盗ニ罹ル佐藤軍曹其夜九挺ヲ取リ戻セリ聊カ功アリ

三十日　風紀ノ下番ナルニ午前休午後二時ヨリ銃器ノ捜索ニ行ク其形散兵ノ如クナリ功ヲ奏セズ其夜加藤竹二郎死亡ノ為メ火葬監視ニ行ク兵卒五名ト小生ナリ夜間銃声四方ニ一二宛聞ク午前二時帰営ス



七月一日　晴天夜ノ疲労ニ堪ヘザルニ午前九時ヨリ海岸清国船ニ銃器ヲ搭載セサルヤニ付偵察ニ行ク功ナシ午後一時半帰営ス斯ル働労ノ烈敷事ハ前古未曽有ナリ此状ニテハ四五日ハ保持セサルノ感ヲ起セリ尚午後ヨリ炊事ニ行ク筈ナリシモ石垣軍曹ニ付油ヲ売リ行カズ

二日　晴天午前四時ヨリ炊事ニ監視ノ為メニ行ク此日清国ノ将校ヲ捕ヘ憲兵ニ渡ス充分証拠アリ

三日　晴天午前四時ヨリ炊事ニ付行ク午後佐藤□子ノ異論ニテ炊事行取止トナル僥倖

四日　晴天永峰慶之助入院ス此日日直ナリ

五日　晴天風紀衛兵ナリ異状ナシ

六日　風紀下番ナリ異状ナシ

七日　晴天風紀衛兵ナリ午前土人ノ合婚ノ鹵薄ヲ見ル其内豚肉衣類永砂糖異様ノ菓子ヲ持行ク実ニ妙也亦葬式ニハ鳴キ役トテ面ニ麻布ヲ掩ヒ鳴キ歩クナリ亦諸ノ鳴物ヲ奏ス順慶ノ家人ト戯

ケ遊ブ桃果ヲ呉レタリ

八日　晴天中隊ニテ入浴ヲ為ス風呂ナリ風紀下番ナリ

九日　雨天ナリ外衛兵ニ港（江）頭方面ニ行ク夜間銃声烈敷眠ル能ハズ

十日　下番雨天異状ナシ

十一日　風紀衛兵ナリ午後鯛一枚ヲ買求メ食ス醤油悪敷シテ不味夜間ハ佐藤軍曹ノ司令故眠ル能ハズ

十二日　風紀下番冬襦袢ヲ収ムチヤンニ洗濯ヲセシム五枚ニテ十四銭ナリ

十三日　晴天田口繁蔵死亡午前七時ヨリ火葬ス炎熱ニ苦ム午後二時半終ル午後七時山下台北ヨリ帰ル日本酒ヲ飲ム上田藤川西三名入院ス

十四日　晴天海底電信ノ監視ナリ兵卒四名ト小生ナリ夜間ハ余程淋然ナリ鶏肉ヲ求メテ食ス美味ナリ

十五日　晴天下番午前十時半帰舎ス午後三時ヨリ遂ニ寒気ヲ覚ヘ非常ニ熱ヲ醸シ閉口ス

十六日　晴天診断ヲ受ク術科休ナリ異状ナシ

十七日　晴天術科休ナリ午後チリ紙半紙晒木綿マッチ多分陸軍省ヨリ給セラル先ニモ酒焼酎煙草ハ沢山供セリ日用ニ足ル

十八日　晴天術科休ナリ煙草沓墨ヲ多分供セリ異状ナシ

十九日　晴天術科休ナリ近日之内ニ南進スルノ風説頻ナリ

二十日　晴天術科休ナリ両三日前第七中隊ノ横田上等兵に谷村計介ノ二ノ舞ヲ行ヒ師団長ヨリ賞金ヲ受ク当詰将校ヨリ賞嘆セラレタリ夜パンヲ供セラル

二十一日　晴天午後四時淡水ヲ出発台北ニ至ル荷物重クシテ余ハ病後ナレバ一層苦ミタリ午後八時着夜二時過寝ニ就ク

二十二日　晴天日直ナリ台北ノ舎内ハ宏大ニシテ殊ニ総督府ノ如キハ実ニ壮厳ナリ午後酒ヲ賜ル

二十三日　午前〇時本日午前四時発ニテ枋橋塘ニ来リ松原少佐ノ枝隊ヲ掩護シ且ツ守備兼ノ命アリ突然起床シテ出発準備ヲ成ス早朝酒携帯口糧ヲ渡サレ余ハ日直ナレバ仕度殊ニ分配シテ実ニ多忙ヲ極メタリ三時半整列ス遽ニ気分悪敷シテ実ニ閉口セシモ堪ヘテ出発シ渡舟場ヲ過テ稍旧ニ復ス午前七時五十分枋橋塘ニ着ス土民恐々セリ直ニ衛兵ヲ置キ警戒ヲ成ス周囲墻塀ヲ繞ラシ余程堅固ナリ昼食ヲ喫スレバ土民茶ヲ運搬シテ余等ニ供セリ妙ニ堪ヘズ茶ヲ運ベリ午後五時林本源ニ入ル其構造ノ厳壮美麗ナル宮殿ニ異ナラズ植木ハ屋敷内ニ満チセメントニテ築山ヲ設ケ邸内石ヲ敷キ広キ事驚ク堪ヘタリ将校下士ニハ支那料理ヲ饗シ鄭重ナル待応ヲナセリ其モ無理ナラズ当家ハ台湾中ニテノ豪家ニシテ台湾収入ノ半額ヲ占ム此度モ四十万円ノ軍費ヲ出シテ台湾ノ独立ヲ斗リ主人ハ基隆ノ戦ニテ討死シタル由平時兵隊百五十人斗リ清国皇帝ニ乞ヒテ自費ニテ警戒セシメ居ルナリ其附近ノ地所ハ皆此家ノ有ナリ故ニ今一度命ヲ下セバ三千位ノ兵ハ直ニ集合スル由ナリ実ニ驚クニ堪ヘタリ当家ノ炊事場ハ鉄管ニテ水ヲ引キ宏大ナル設置ナリ孔雀ヲ養ヒ植木ハ其数ヲ知ラズ皆人鳥獣ノ形ヲ作リ妙ヲ尽セリ午後五時ヨリ第一ノ門ニ外衛兵ニ行ク兵卒六名ト余ナリ夜間土民ハ茶ヲ運ビ吾等ニ供ス其他媚ヲ呈セリ此夜ハ少シモ寝ル能ハズ翌朝八時交代ス其日ハ朝ヨリ砲声ハ頻ニシテ時ニ一斉射撃ヲ聞ク午前十二時ニ至リ少シク止ミ



午後亦稍之ヲ聞ク吾隊ヨリ出タル斥候ノ報告ニ依レバ吾軍ハ敵ヲ砲ニニテ(?)撃退シ村落ヲ焼払ヒタル由終日放火ニテ煙ハ盛ナリ松原少佐枝隊ハ第五ノ兵力ヲ借ルニ及ハズト述ベタル由此夜中隊ハ林本源家ニ舎営ス

二　剣山　二　田口　二　平岡
三　上田　一　西
二　福島　二　三谷
二　菅原　二　佐藤
二　山田
ヒスケット　六十三食
糒　六十　食

右之通届アリ

剣山十　上田二　藤川三　福島十二
山下五　永峰六　伊藤四　永谷一
杉谷　田口七　西八　三谷九

歩哨順序

当市土牛町五拾七番地

松川亀三方

山本清二郎

宿舎

## 日誌　三

鶏毎斤多少銭

鶩毎斤多少銭

（中略）

命令

四月八日午後七時松尾宅ニ於テ弐個

一ツ

敵ハ清国ニアリ

二

我軍ハ進テ金州ニ至リ第二軍ヲ編成（マヽ）シテ北京城ヲ踏レントス

三

中隊ハ明九日午前三時

三十分出発宇品ニ

向ヒ三池丸ニ乗舟

セントス勇カンナル諸

士ヨ遅レナク中隊本

部前ニ集合スヘシ

特務曹長　剣山

各分隊長　藤川

八月六日弾薬過分返納

九百六十発

4 12 8　林田

5 1 9　東海林

6 2 10　山下

7 3 11　三谷

4 12 8　包国

5 1 9　高沢

6 2 10　永名

7 3 11　中尾

七月十二日

冬襦袢　十七枚
袴下　十五枚

十字鍬　池田栄次郎
方匙　福島　芳造
同　山下浅二郎
鎌　管原貞左ヱ門
提灯　方匙　永名　米松
方匙　三谷　義久
十字鍬　松谷寅二郎

携帯口糧残品

ピスケツ　糒

四食　二食　剣山
一食　〇　山下浅
四食　四食　藤川
八食　〇　松谷
一食　四食　永名
三食　四食　田口
四食　四食　福島



五食　〇　永峰
四食　〇　菅原
四食　四食　山田
四食　四食　佐藤
三食　三食　西
三食　二食　三谷
四食　〇　上田
四食　三　平岡
計 57　計 34

右ハ五十四ト
届ケアリ

田口弾薬
百五十九発
外四名分
六百三十七発

彰化占領ノ時調査弾
数費高

三十発　山田　三十一発　永名
三十発　高梨　廿八発　小山

四十六発　三谷　三十四発　福島
計　百九十九発
残高
121　小山　115　高梨　94　永名
95　山田　85　福島　79　三谷
三発間遠
五百八十九発

衛兵勤務表

六月　藤川
7　錫口　11　淡水　14
七月
16　20　23　27　29　3

永峰

六月
7　錫口　9　淡水　13
16　20　23　28　30

永名

六月

錫口
7　11　14　七月
16　19　22　30　14　16　18　21
艦艉27　28　29　八月　台北　2　3　4　6　7
5　白砂屯　廿一日大甲ニ偵察ニ行ク
彰化　廿四日皈着
27　独立下士哨　28　無名村　九月一日小哨　斗六ニテ偵察

江頭ニテ　三谷
六月8　11　14
16　19　24　26　七月　3　5　7　9　11　13　15
18　20　25　艦艉27　28　29　八月　2　3　4　艦甲
6　7　台北　13　后竜　20　宛里　25　大肚街
27　前哨ノ後方炊事　28　無名村　九月斗六ニテ
聯隊附ノ際小哨　7　偵察

錫口　上田
六月7　錫口　七月　艦
18　22　25　3　5　7　9　11　27
台北6　7　16　宛里20　宛里　廿四日大隊炊事行

福島　　平岡　国太郎
枋橋塘　　佐藤源右衛門
六月　　上田　くま
7　錫口　　福島　又太郎
9　13　七月　　山下　源之助
16　21　12　14　17　24　艦艇　　永名　秋吉
27　28　29　艦艇　　松谷　林助
八月　　三谷　長馬
4　艦艇　海山□ニテ　　菅原　貞二郎
8　□□
16　宛里22宛里　二十四日ヨリ　二等患者　　静岡県静岡市上石町弐町目
大浦林ニテ小哨或下士哨　　廿九番地平民
九月十日北斗ニテ小哨　　池田栄二郎
158　22　15　永名　　68211
157　23　15　福島
158　22　15　佐藤　　西益　太郎
159　21　15　山田　　遊歩哨六月六日　出
158　22　15　平岡軍　　十一日皈ル
百八十発ニ補充シ其後　　上田　遊歩哨
十五発宛　入院患者ノ分ヲ　　十四日皈隊
各分隊ニ配当シテ
渡ス向後各人　　各人弾薬　百弐十発宛
百九十五発なり　　糧食九食　従前外三食分余リ

八月五日　糒　三十一食
罐詰　七　個　渡リタリ
食塩二十一個

小山宣之助

八月　大肚街
23大甲25　27聯隊護衛時炊事　28無名村小哨

九月一日
偵察斗六ニテ大浦林小哨或下士哨

九月九日刺桐巷衛兵九月十日北斗小哨十二日衛兵十四日衛兵

高梨　仁三郎

八月
29大甲25大肚街　27聯隊附ノ時炊事　彰化攻撃ノ前夜　28無名村小哨

九月一日斗六ニテ
偵察　九月十日北斗衛兵二日続キ

大浦林ニテ小哨下士哨

**日誌ノ続キ**

七月廿四日　晴天第五中隊ヨリ度々斥候ヲ派遣ス異状ナシ衛兵異状ナシ衛兵下番ナリ午後泡盛酒パンノ恤兵品アリ将校ハ度々支那人ヨリ馳走ヲ受ケ酒ヒルカシワノ御料理午後下士ニ振舞ヘリ此日土民ハ良民ノ証ヲ受ケニ続々来ル午後山砲兵戦ヲ終リ皈リ来ル午後二時先発ニテ台北ニ帰リ皈営準備ヲ為ス

二十五日　晴天早朝ヨリ洗濯ヲ成ス海軍大将樺山口巡視ス異状ナシ

二十五日　晴天異状ナシ午後二時先発隊ニテ台北ニ帰ル準備ヲ成

二十六日　晴天早朝ヨリ洗濯ヲ行フ樺山大将巡視ス

二十七日　中隊長縦列隊ニ転ス其理由　午前六時出発ニテ艦街艸ニ前哨ニ出ツ夜間佐藤軍曹ト同下士哨ナリ異状ナシ昼間ニ飯運搬ニテ閉口

二十八日　晴天独立下士哨ニテ異状ナシ午後雨遽ニ降リ閉口

二十九日　午前九時衛兵交代ス午後三時半ヨリ夕食ヲ台北ニ取リニ行ク大風雨ニテ身体乾キタル処ナシ

三十日　午前第八中隊ト交代ス異状ナシ

三十一日　晴天午前ヨリ大隊本部ニ外套乾キニ行ク午後皈営遂ニ熱病ヲ醸ス

八月一日　診断ヲ受ケ術科休

二日　晴天壮健者ハ午前六時ヨリ艋舺街ニ衛兵ニ行ク生ハ残留ナリ術科休故

三日　晴天術科休岡本房彦遊ビニ来レリ佐藤源吉入院ス午後佐藤入院ス

四日　晴天術科休異状ナシ壮健者ハ艋舺街衛兵

五日　晴天術科休艋舺街ノ衛兵皈リ来ル

六日　晴天術科休午前弾薬過分ヲ返納

七日　晴天快復トナル日直ナリ明日出発ニテ諸物品ノ返納準備ニテ大多忙



八日　晴天舎内ノ大片附物品返納ス午後三時出発ニテ午後六時海山口ニ着弾薬衛兵ニ行ク二時間ナリ皈リテ午前八時半出発ナリ少シモ寝ル能ハズ

九日　午前〇時半海山口ヲ発シ同十一時中歴（櫪）ニ着ス午後少シク雨降ル行軍大疲労ヲ覚ユ酒ヲ渡サル

十日　晴天午前三時出発同拾時半大湖口ニ着急造廠舎ニ宿ス冷気夏ヲ忘ル午後酒ヲ渡サル

十一日　午前三時半出発八時半新竹県ニ到着ス市街ノ周囲ハ例ノ胸壁アリテ其構造尤妙意匠ヲ尽シタリ商況盛ナリ城外ニ□泊ス

十二日　午前九時新竹台中港ヘ向フ途中雨ニ遭フ中港ノ土民皆遁走シテ空家ナリ

十三日　七時発中港ヨリ後竜（後壠）ニ向フ途中河ヲ徒渉シテ膝ヲ没ス午後〇時半後竜ノ前方ノ高地ニ敵兵砲ヲ据ヘ抵抗尤頑固ナリ吾山砲隊猛烈ナル射撃ヲ行フ榴散弾敵ノ頭上ニ破壊シテ恰モ花火ノ如シ二時間半余ノ抵抗中々頑固ナリ敵ノ死傷弐十二

余アリ吾死傷微少敵ノ砲台余程ノ工事ナリ占領セシハ午後三時半ナリ吾等ハ後竜ノ後方ノ空地ニ停止シテ軍旗ヲ護衛シ占領後後竜ニテ舎営ス自炊ニテ鵞ヲ求メテ菜ト為ス市街ハ五百余ナリ午前四時雨降ル

十四日　午前七時出発昨日ノ敵ノ砲台ニテ昼食ス午前モ川ヲ徒渉ス膝ヲ埋ム廻レ右シテ亦後竜ニ皈リ舎営ス菜ハ鵞ヲ渡サル

十五日　午前六時出発川ヲ徒渉シテ山岳ヲ攀ヂ午前十時白砂屯（白砂塚）ヘ着ス村落ニシテ眠食ニ不自由ナリ卵ヲ求メテ食ス

十六日　午前七時白砂屯出発遁霄（呑霄街）ニテ一泊ノ筈ナリシカ第二旅団滞在ノ故ヲ以テ尚進ンデ宛里（菟裡街）ニ泊ス第五中隊歩哨ヲ張ル

十七日　晴天宛里滞在異状ナシ聯隊長副官死亡隊長病気夜大ニ雨降ル盆ヲ傾ク如シ腫物ノ切開ヲ施ス

十八日　晴天宛里滞在異状ナシ腫物ノ洗條

十九日　晴天異状ナシ

二十日　晴天午前前哨ノ積ニテ第五中隊ハ準備シ現場ニ至リシカ第六中隊房里（房裡街）ニ前進ノ故ニテ不用トナリ外衛兵ノミニテ取止メ

二十一日　晴天異状ナシ宛里滞在中鵞肉鶏肉ノミヲ菜トス小山高和等増員トナル異状ナシ

二十二日　晴天二十三日　宛里午前五時出発大甲ニ十時着大甲周囲墻塀アリテ商況盛ナリ第二旅団滞在セリ

二十四日　晴天大甲出発牛馬頓（牛駅頭）ニ九時着ス村落風ニシテ商品夥敷

二十五日　晴天六時発牛馬頓発シ十一時過大肚街着ス午後遽雨アリ外衛兵司令ニテ村端ニ出ツ兵卒五名今夜ハ支那米ニテ明朝モ同様閉口〳〵外衛兵前方ニテ砲銃声頻ナリ

廿六日　早朝引揚ゲニテ六時半整列シ前哨線ニ出デ暫時軍旗ニテ今夜ハ前哨中隊ニテ露営ス此頃ハ煙草払底ニテ他人ニ就テ乞喫シ実ニ不自由ノ身ノ上ナリ敵弾第八中隊ノ前哨中隊ノ頭上ニテ破裂セシモ幸ニ傷者ナシ幸云此日暑気甚廿七日晴天前哨ニテ

川ヲ隔テ敵ト相対シ銃頻ナリ敵我兵一弐名ヲ見レバ必ズ発砲ス
馬鹿耶郎吾ハ前哨中隊ナリシ此日直勤務ナリ

廿七日　晴天午後前哨第七ト交代聯隊本部ニ付キ夜間雨降閉口
明日ハ総攻撃ニテ尚歩哨付ニテ眠ル能ハズ

廿八日　午前二時半整列ニテ夜間暗黒ニテ川岸ニ至リ其レヨリ急流ヲ徒渉シテ対岸ニ達ス其間敵弾ヲ受クヤト案シタリシニ幸ニ敵兵不知無事岸ニ上陸シテ第五六中隊ハ敵ニ対フ味方ノ相図ノ砲声ニテ攻撃ヲ初メタリ機関砲声妙々ナリ第五ハ敵ノ北ヲ後ニ出テ退路ヲ断チ敵兵ヲ殺ス尚進ンデ彰化ノ市街ニ入ル敵ノ死者無数第一小隊中村少尉外数名負傷其ヨリ砲台ニ向ヒ途中敵ヲ撃退シ第八七中隊ノ掩護ヲ成ス無事第八七中隊砲台ヲ占領ス敵ノ退クヲ丘上ニテ一斉射撃ヲ成ス遂ニ砲台ニテ二時間休息シ第二大隊ハ敵ノ追撃ノ任務ニテ前進ス午時（前カ）十一時途中彰化市中ヲ過グ瓦煉塀墻ヲ廻ラシ市中ハ家屋美麗ニシテ道路ハ煉瓦ヲ敷キ城門ハ台北ヨリ美ナリ此処ニテ宿スル能ハズ前進トハ残念ナリ軍機ノ然ラシムル処是非ナシ此日ハ第二小隊ハ尖兵ニテ吾々ハ斥候ナリ三里斗リ進ミテ無名村ニ一泊ス土民媚ヲ呈ス携帯口糧ヲ食ス彰化ノ砲台ハ砲三門第五中隊ハ清国馬一頭其他複雑ノ分捕夥シ今夜ハ第二小隊前哨中隊ノ小哨ニテ一夜歩哨附



ナリ

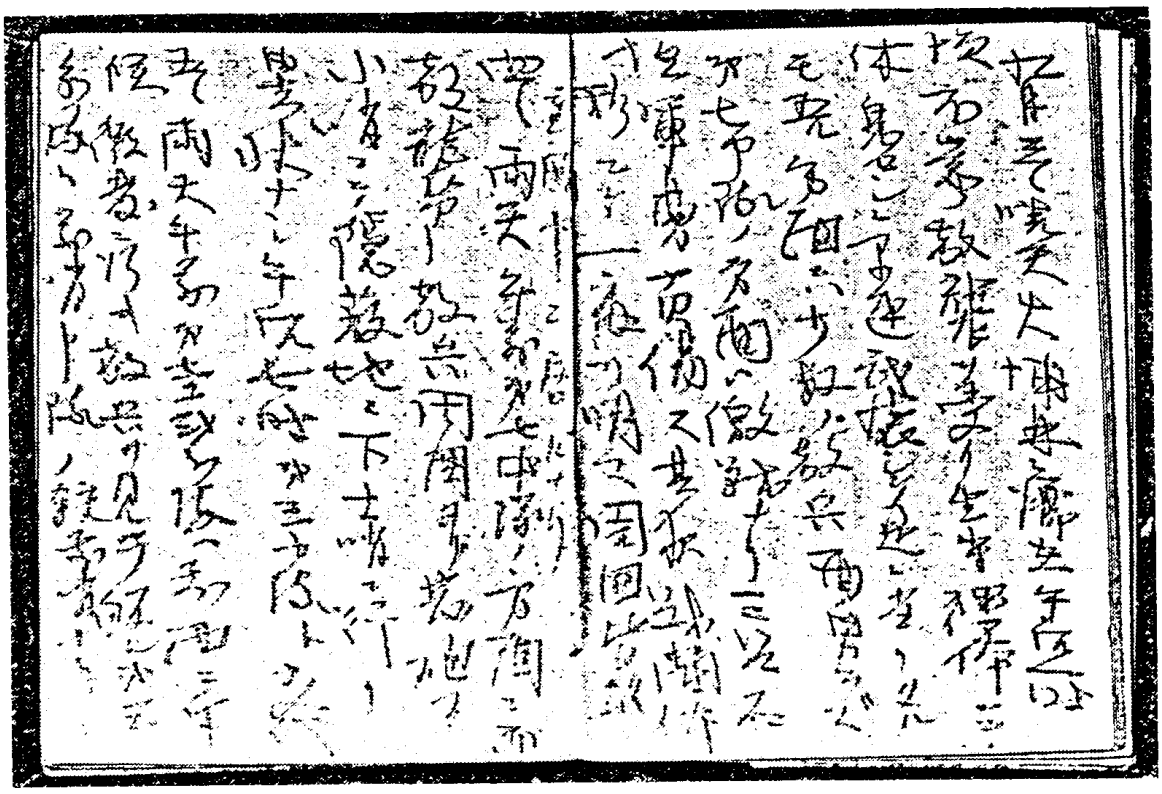
廿九日　午前突然無名村出発ノ命令ヲ聞キ食事ヲ済シテ出発ス
朝食ハ鶩ヲ菜トスジヤボン並ニ丸キ実無暗ニ食ス途中迂路ニテ苦ミ暫二時員林街ニ着四時舎ニ付ク鶏肉を食ス敵兵ノ残留スルアリ午前五時大雨アリ

三十日　午前六時出発騎兵道ヲ誤リシ為五里強進ミテ二里半亦退路シテ北斗街ニ舎営ス此日疲労甚シ

三十一日　北斗街ニテ滞在シ草鞋作リヲ為シ鶩鶏肉菓物ヲ鯨食ス

九月一日　午前五時半出発多クノ川ヲ徒渉シテ斗六街ニ着ス偶騎兵前進途中村落ニテ射撃ヲ受ケタル為メ第弐小隊ノ偵察ニテ午後四時亦武装シテ二里半斗前進セシモ異状ナシ午後十時飯営ス携帯口糧ノ夕食ナリ疲労言ン方ナシ

九月二日　午前五時出発途中川ヲ渡リ沼ヲ狩リテ大莆林ニ着ス
敵兵ハ嘉義ニ二哨斗アル由



九月三日　晴天大浦（莆）林ニ滞在午後一時頃不意ノ敵襲ヲ受ク生等裸体ニテ休息セシニ早速武装シテ是ニ当リタルモ吾方面ニハ少数ノ敵兵面白カラズ第七中隊ノ方面ハ激戦ナリ三谷　石垣軍曹負傷ス其夜戦闘体形ニテ一夜ヲ明ス周囲皆敵重囲中ニ居ルナリ

四日　雨天午前第七中隊ノ方面ニ亦敵襲アリ敵兵周囲ヨリ発砲ス小哨ニテ隠蔽地ニ下士哨ニ行ク異状ナシ午後七時第三小隊ト交代

五日　雨天午前第壱弐分隊ハ前面ニ斥候徴発ニ行キ敵兵ヲ見テ皈ル第三分隊ハ前哨中隊ノ銃前哨ナリ午後六時ヨリ小哨ニテ吾ハ兵卒三名ヲ率ヒテ敵ニ通スル道路ヲ警戒ス夜チヤン〳〵ノ老婆ヲ敵兵ト思ヒ竹林中ニ刺ス負傷後後方ノ竹林ニアリ○△追加小哨交代迄ニ第二小哨ノ方面前ノ敵兵ヲ撃退ニテ第三四五分隊ノ兵十五六名ニテ向ヒタリ吾ハ斥候ニテ水田ヲ渉リ捜索セシニ果シテ竹林中ニ敵兵アリ依テ報告シテ撃掛リタリ生等水田中ニ伏射ス敵弾雨ノ如ク亦砲ヲ発セリ遂ニ之ヲ撃退シテ皈敵兵左方ヨリ迂回シテ来ル幸ニ生等ハ前哨線内ニ皈リシナリ△○ノ続キ敵情ハ相変ラズ発砲セリ

六日　尚古同処ニテ下士哨ナリ別ニ異状ナシ敵ノ重囲中丈ケ砲声頻ナリ午後六時第三小隊ト交代シ前哨中隊ナリ

七日　午前弐時半突然命令ニテ第七中隊ハ当大隊ノ背進スル為メ退路占領ノ任ヲ帯ヒ払暁他里無（他里霧）方面ニ進ム為メ第二小隊ハ第七中隊ノ交代ニ行ク払暁第七八出発ス後備ハ第五中隊ノミナリ午前六時半敵兵攻撃ヲ成シ来ル榴散弾ヲ発射ス追々敵増加シ敵兵勇ンデ水田ヲ渉リ来ル第二小隊左右ニ奔走シテ守備ス第四五分隊ハ苦戦シテ五百余ノ敵兵ヲ水田ニ撃破ス石丸某戦死ス第三分隊ハ前面ノ村落ニ派遣シテ敵ノ迂回ヲ防ク村落中捜索ニ苦ミタリ此時ノ戦ハ前日ニ無比ノ敵襲ニテ皆水田ヲ渉リテ来リシナリ此日ハ吾等ハ守備第五中隊ノミナレバ戦死ノ覚悟ナリシ敵兵ヲ撃退セシハ午前十時半ナリ昼食後亦第三分隊ハ下士哨ニテ行ク午後弐時半背進ニ付下士哨引上ゲ小哨ニ皈ル佐藤軍曹ノ率ユル下士哨未ダ皈ラズ命令ヲ誤リテ他処ニ至リシヲ以効ナシ依テ生ハ兵卒弐名ヲ率ヒテ報告ニ行其心ノ焦セシ事限ナシ一生懸命駈足ニテ遂ニ其効ヲ奏シテ皈レバ第五中隊ハ後方ニ皈リ吾々ヲ迎ヘリ其嬉敷事云ン方ナシ其レヨリ背進シテ他里無ニテ第六八中ト合シ茲ニ一大隊ノ兵力トナリ大ニ力ヲ得尚進ンデ刺（莉）桐巷之前方大川ノ前ニテ露営此日ノ苦戦ハ一生忘ル能ズ夜間寒気ヲ覚ヘ竹ヲ焚キテ寒ヲ凌ク湯水ハ一滴モナク川水濁リタレモ凌キテ之ヲ沸シテ呑ム



八日　午前携帯口糧ヲ朝食川水ヲ渉ル駄馬ハ荷ヲ卸シ筏ニ乗セテ渡ス第五中隊ハ後尾ニテ輜重ヲ渡シテ後徒渉ス十時渉リ終リ十一時頃刺桐巷ニ着ス携帯口糧ノ昼食ヲ成シ宿営ノ由ニテ吾ハ設営隊ナリ午後二時舎ニ就ク土民ハ皆遁走シテ一弐ノ隻影ヲ見ルナシ水筒ハ払底ス夜八時突然第三分隊ハ外衛兵ニテ出発ス夜中（異脱カ）状ナシ

九日　午前芋煮ヲ食ス午前九時交代舎ニ皈リ午後一時出発ニテ北斗街ニ皈ル川深クシテ睾丸ヲ沾ス夜間寒ク眠ル能ハズ小生患者担キノ背負袋輜重ヨリ受取ニ苦ム

十日　晴天午前舎換ヘ午後五時命令ニテ敵兵亦襲来ルノ事ヲ土民ヨリ密告シ為ニ第二小隊ハ小哨に行ク異状ナシ

十一日　午前交代此日日直ナリ増々襲来ルノ風説頻ニシテ土民荷物ヲ携ヘ遁去レリ警戒厳ナリ

十二日　晴天工事等ニテ多忙異状ナシ

十三日　晴天異状ナシ粟餅食ス

十四日　晴天午前四時北斗対河岸ニ偵察ニ行ク異状ナシ河水多ク亦砂膝ヲ没ス皈リ亦鶏鶩鳥ヲ徴発ニ行ク其効ヲ奏ス異状ナシ

十五日　晴天午前ヨリ中隊付ヲ命セラレ給養掛助手ヲ成ス総テ給食ノ事務ヲ成ス諸買物ヲ成ス終日暇ナシ

十六日　晴天諸買物ヲ成ス異状ナシ

十七日　晴天諸買物異状ナシ

十八日　晴天同上

十九日　晴天同上

廿日　同上

廿一日　同上

廿二日　同上午後十二時敵襲アルノ由ヲ以テ遽ニ第五中隊ハ西門ニ派シ斥候ヲ出シテ捜索セシニ賊兵二十人斗リ豪家ニ侵入シ衣類金銭ヲ掠メ去レリノ報ニテ別ニ異状ナシ早朝帰リタリ

廿三日　ハ秋季皇霊祭ニテ国旗ヲ挙ゲ祝意ヲ表シ午後下士官ノ酒宴ヲ開ク洋食ニテ馳走ナリ夜ニ至リ台湾ノ芸人ヲ呼ヒ二絃ヲ弾セシメ亦踊ラシメリ実ニ妙ヽ

廿四日　晴天異状ナシ

廿五日　雨天異状ナシ

廿六日　異状ナシ雨天

廿七日　異状ナシ晴天

廿八日　出発準備晴天ナリ

廿九日　出発延引異状ナシ

三十日　晴天同上

十月一日　異状ナシ

二日　同上

三日　同上

四日　北斗午前六時出発ス　生ハ　中隊荷物監視シテ行ク　図子脚（樹俘脚）之前岸敵兵掩堡ヲ築キ頑固ニ抵抗ス我軍砲撃シテ遂ニ占領シ進ンデ刺桐巷ニ一泊シ翌日前面ノ無名村ニテ

六日　晴天前哨中隊ニテ中隊炊事ニテ大多忙〳〵

七日　晴天無名村落出発シ他里務ノ敵兵ヲ撃ツノ目的ニテ午前六時出発ス生ハ尚中隊ノ荷物監視ナリ敵兵三千余アリ頑固ニ抵抗シ森林中ヨリ狙撃セリ第五八中隊ハ前面ノ村落ニテ舎営ス異状ナシ森中尉以下拾名斗負傷小関即死

八日　同処出発シ前衛本隊トナリ大莆林ノ敵兵ヲ破ル左右翼隊ノ砲声ヲ聞キ勢猛ナリ林少尉以下数名負傷尚進ンデ打猫街ニ舎営ス道路暗黒ニシテ夕食ハ午前十時ナリ



九日　午前出発嘉義ヲ攻撃ス敵兵三千一時半余ニシテ嘉義ヲ占領ス左右翼枝隊ト総攻撃ニシテ急ニ城門ニ入リシヲ以テ敵兵遁ルヽ間モナク処々潜伏シテ翌日台南ニ遁レタリ俘虜三百人大将アリ

十日　異状ナシ晴天

十一日　晴天異状ナシ午後野菜徴発シニ出テ好結果ヲ得タリ

十二日　晴天異状ナシ

十三日　晴天午前ヨリ嘉義附近ノ村落ニ敗兵ノ潜伏ナキヤノ捜索ト徴発ヲ兼テ出発異状ナク無徴発ニ午前十二時皈リタリ

十四日　晴天劉永福ノ和使師団ニ英国人来リタリシ也事不頼ニ出テタレバ早速帰ラシメタリ妙〳〵

十五日　晴天嘉義滞在異状ナシ

十六日　晴天同上

十七日　同上午後一時出発ニテ打猫ニ皈リ守備隊タリ皈ル節人夫少ク我等多クシテ大ニ閉口ス午後五時打猫ニ付

十八日　晴天打猫滞在

十九日　晴天同上

廿日　晴天　同上

廿一日　同上

廿二日　晴天聞クガ如クンバ第二旅団（師団カ）同支隊抵抗ヲ受ケズシテ台南ヲ占領セシ由

二十三日　晴天同上

二十四日　曇天少シク寒気ヲ帯ビ異状ナシ

二十五日　晴天同上

二十六日　同上

二十七日　同上

二十八日　同上

二十九日　同上

三十日　同上

三十一日　同上前方ノ池ヲ旱シテ魚ヲ取ル大漁アリ午後大浦林兵站部ヨリ酒弐石ヲ受取ル

十一月一日　午前異状ナシ午後同上酒ヲ飲ム

二日　午後雨降ル酒宴ヲ催ス

三日　午前風雨ナリ午後少シク晴レ酒宴ヲ催ス

四日　曇天第二師団兵特務下士外両三名来ル

五日　晴午後一時第四旅団ト交代シ嘉義ニ向ツテ進発同夜嘉義ニ宿ス

六日　晴嘉義滞在

七日　晴午前六時半嘉義出発ス　余ハ二等患者護衛ナリ　安渓寮（蓼）ニ宿ス中隊炊事ニ午後十二時迄眠ル能ス大困苦ヲ尽セリ

八日　雨天安渓寮午前六時半出発曽文渓ノ南方ノ村落ニ宿ス夜中雨アリ此行軍未曽有ノ困苦ヲ嘗ム足并ニ膝ノ痛キ事古代忘レズ

九日　晴曽文渓出発台南府ヲ過キテ東門外大一里ノ村落ニ台南府中壮麗ノ楼閣アリ物価高シ道ヲ迷ヒテ漸ク宿ス夜間雨降ル

十日　晴天滞在

十一日　晴天午前六時出発阿公店ニ宿ス

十二日　晴天阿公店出発旧城ニ着ス明日出発ノ早キ為メ夜間眠ル能ハズ亦患者ノ担架ノ棒ノ事ニテ閉口

十三日　晴天午前四時出発打狗港ニ向フ荷物ノ護衛□ノ午前八時着ス打狗ノ風景尤佳ナリ午前十一時乗船土佐丸ナリ端艇ハ非常ニ動揺ス酔フモノ多シ午後三時半出帆ス夜間雨多シ風アリ



十四日　晴天航海異状ナシ

十五日　同上二等軍曹拝命ノ達アリ示命ハ十日出ナリ

十六日　晴天海路異状ナシ

十七日　同上午後日向灘ヲ過キ鹿児島港左ニ遠望ス

十八日　晴天午前八時広島湾入ル十一時端艇ニテ似島検疫所ニ上陸ス金櫃預リヲナシ中隊ヨリ後レテ受検浴湯後茶菓煙艸手拭ヲ供セラル二時余リ終リ端艇ニテ宇品港ニ着ス初メテ日本作リノ家屋ヲ婦女ヲ見テ満足感ヲ起ス軍隊休憩所ニ着キシハ五時ナリ夕食ヲ終リ八時五十分発ノ列車ニテ東京ヘ向テ出発ス

十九日　晴天朝食午前五時岡山ニテ喫ス途中万歳ノ聞天地ヲ振動ス昼食ハ神戸歓迎人山ノ如ク凱旋門ヲ作リ楠公社ノ前ニテ休息後列車ニ塔シ出発馬場ニテ夕食但シ気車中ニテ喫ス

廿日　晴天朝食浜松ナリ同シク気車中ニテ食ス昼食沼津午後三時新橋着歓迎者山ノ如ク各旗ヲ携ヘ大小秋風ニ飜リ音楽隊アリテ嘲哢タル聞トトモ屯営ニ入ル其歓迎ノ美ナル筆紙ニ尽シ難シ屯営ニ入リシハ五時半ナリ各舎ニ就リ夕食ノ時下士一同商人ヨリ酒肴ヲ受ケ下士集会所ニテ楽ヲ尽ス

二十一日　雨天午前武器被服ノ手入レ午後二時ヨリ外出ス下士ハ点呼迄ナリ

二十二日　曇天少シク雨降ル午前写真ヲ取ル午後休五時ヨリ下士一同宴会アリ

田中長二郎

九月一日　九月七日佐藤軍曹

斗六ニテ偵察　迎ヒヲ奔走シテ効ヲ奏ス　同日患者

担架　九月九日刺桐巷与衛兵

九月十一日　工事ニ行ク十二日衛兵北斗

十三日工事ニ行

十四日偵察ニ行ク北斗街

十四日衛兵北斗

関根

九月一日

斗六ニテ偵察七日十三名効ヲ奏セシ中ニ加リ多ク労ヲ成ス

九月十二日九月九日刺桐巷ニテ衛兵

〃〃〃〃

上村

九月一日斗六ニテ

偵察　大埔林ニテ小哨下士哨

刺桐巷ニテ衛兵　九月十二日北斗ニ衛兵

高梨仁太郎

八月廿六日斥候

九月八日　刺桐巷迄

患者ヲ担架ス

九月十三日

中隊炊事

小山序之助

八月　夜

一兵士の日清戦争従軍日誌

廿六日斥候　九月四日大浦林ニテ家屋焼払ノ斥候
九月七日伝令数回奔走ス同日患者担架ス
九月十一日北斗ニテ工事ヲ作ス
十三日同工事ニ行ク
十四日川岸ニ偵察ニ行北斗

池田栄二郎

七月十二日　台北ニ使ス
十三日　田口火葬ニ行
六月廿九日　加藤竹二郎火葬ニ行ク
七月十四日炊事
十七日炊事
二十一日炊事ニシテ此日ハ台北ニ舎替ニ付引続キ二十二日炊事
廿三日夜外衛兵　枋橋塘ニテ

三谷義久

分隊万端事ニ勉強シ倦マサルノ風アリ
六月八日杉村軍ト斥候ニ出ツ
六月十日前面山ニ斥候出ツ平岡軍
六月十一日捕虜護送ノ為メ乗船シテ福州ニ至ル
六月廿五日大須賀中尉ト兵□□捜索ニ行ク
七月廿一日台北ヘ舎営替ニ付荷物船ヨリ引揚ニ付二度往復ス
七月二十二日午前ヨリ松原少佐ト枋橋塘偵察ニ行ク
廿三日枋橋塘ヨリ台北ニ伝令ス廿四日飯枋橋塘
八月　十二日　中港炊事

兵卒特別勤務表

剣山　万吉

六月八日台北ヨリ関東至ル間第三分隊尖兵ニテ道路上斥候
六月十日前面山ニ斥候ニ出テ平岡軍

上田　磯吉

六月二日金皎省ニテ川ヲ徒渉シテ徴発ノ労ヲ取ル
四日基隆ニテ遠巨（距）離糧食運搬
八日遙歩哨ニ出ツ十四日帰隊
六月廿九日加藤竹二郎ノ火葬ニ行ク
七月十三日入院
八月六日衛兵台北
八月十一日新竹ニテ炊事

藤川　駒次

六月八日関東（マヽ）ニテ斥候并連絡ヲ失ヒテ遠方ニ展望ニ行カシム
六月三十日淡水砲台附近ニ銃器ノ探見行ク
六月二十二日台北ニ入院患者ヲ送ル
七月四日台北ニ行ク
七月一日船中ニ銃器ノ塔載ナキヤニ付捜索ニ行ク　従卒タリ
十三日入院ス

福島　芳造

六月九日　風紀衛兵ナリ
六月十日台北ニ薬ヲ取リ行ク
七月廿一日舎替ニ付荷物引揚ニ付二度往復ス
廿四日枋橋塘ニテ風紀衛兵
八月五日ヨリ炊事二日間

山下　浅次郎

盛京省ニアルヰ常炊事ヲ成ス
六月三十日淡水砲台附近ヘ銃器ノ探見ニ出ツ中隊長ノ指揮
七月二日　台北ニ使ス
六月二十日川口楠松ノ火葬臨検ス
七月十二日台北ニ使ス
七月廿一日台北舎替ニ付荷物引揚ニ付二度往復ス

永峰　慶之助

凡テ炊事食事ノ労ヲ取ル

六月八日村椙軍曹ト斥候

菅原貞右衛門

凡テ炊事其他分隊ノ小使ヲナシ戸尾（扈尾街）
糧食運搬非常ニ勉強ス
六月三十日砲台附近ニ銃器探見ニ
行ク
七月十二日一人ニテ中隊ノ諸雑務ヲ
ナシ中隊ノ買物ニ行ク
七月二十一日舎替ニ付荷物三度往
復ス
廿三日夜外衛兵　枋橋塘ニテ
二十五日枋橋塘ヨリ飯営ノ際海山
口ニ斥候兼伝令ニ行ク

永名　米松

六月十日前面山ニ斥候平岡軍司令
分隊兵卒ノ亀鑑トナリ炊事万端
ノ事掌ル
六月十一日捕虜護送ノ為メ福州ニ至ル
七月二十一日舎替荷物引揚ニテ不時使



役ナリ
廿四日風紀衛兵　枋橋塘
八月十日中歴ヨリ先発シテ大湖
口ニテ炊事当番ナリ
十九日　上等兵
八月二十一日　大甲ニ偵察ニ行ク上等兵

松谷　寅二郎

大隊ノ定炊事ニテ亦中隊ノ炊事
ヲ掌ル
六月廿五日大須賀中尉ト兵営ノ捜索
ニ行ク
六月二十五日入院患者ヲ台北ニ送ル
七月十六日台北ニ荷物監視ニ
行ク
七月二十一日舎営替ニ付荷物引揚
ニテ二度往復
廿三日朝出発前炊事ニ行ク
廿四日風紀衛兵ナリ枋橋塘ニテ

田口　繁三

六月十日前面山ニ斥候出ル
六月三十日砲台附近ニ銃器ノ探見ニ行ク
三十一日午前船中ニ銃器ノ載セサルヤニ付捜索ニ行ク
七月十二日午後死亡ス

西　益太郎

炊事ノ助手ヲナシ
六月七日六時ニテ進歩哨ニ出ル
六月廿九日台北ニ使ス
七月八日台北ニ行ク
十三日入院